

# TOPPAN FORMS

CSR報告書 2017



# CONTENTS

|                       |           |
|-----------------------|-----------|
| トップメッセージ              | 1         |
| グループ事業概要              | 2         |
| <b>特集1</b>            |           |
| BCPの基本! 従業員の安全対策      | 4         |
| <b>特集2</b>            |           |
| 地域、社会とのきずな            | 6         |
| トッパンフォームズのCSR         | 8         |
| 2016年度の実績と2017年度の施策   | 10        |
| <b>マネジメント体制</b>       | <b>12</b> |
| リスクマネジメント             | 13        |
| コーポレートガバナンス           | 14        |
| コンプライアンス              | 16        |
| 事業継続                  | 17        |
| 情報セキュリティ              | 18        |
| <b>ステークホルダーとのかかわり</b> | <b>20</b> |
| 地域社会とともに              | 21        |
| お客さまのために              | 24        |
| 株主・投資家とともに            | 26        |
| 取引先とともに               | 27        |
| 従業員とともに               | 28        |
| <b>地球環境とのかかわり</b>     | <b>32</b> |
| 環境マネジメント              | 33        |
| 研究・開発                 | 35        |
| 環境に配慮した製品・サービス        | 36        |
| 環境コミュニケーション           | 37        |
| 環境パフォーマンス             | 38        |
| 第三者意見                 | 40        |
| ISO26000対比表／編集後記      | 41        |



「国連グローバル・コンパクト」は、各企業・団体が責任ある創造的なリーダーシップを発揮することによって、社会の良き一員として行動し、持続可能な成長を実現するための世界的な枠組みづくりに参加する自発的な取り組みです。トッパンフォームズは、国連グローバル・コンパクトの4分野にわたる10の原則を支持・実践するとともに、さらに積極的にCSRへの取り組みを推進し、持続可能な社会の実現を目指します。

## 国連グローバル・コンパクト10原則

- |      |  |
|------|--|
| 人権   | 原則1：人権擁護の支持と尊重<br>原則2：人権侵害への非加担  |
| 労働   | 原則3：結社の自由と団体交渉権の承認<br>原則4：強制労働の排除<br>原則5：児童労働の実効的な廃止<br>原則6：雇用と職業の差別撤廃 |
| 環境   | 原則7：環境問題の予防的アプローチ<br>原則8：環境に対する責任のイニシアティブ<br>原則9：環境に優しい技術の開発と普及        |
| 腐敗防止 | 原則10：強要や贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗を防止する取り組み                                       |

## 【表紙解説】

(タイトル)笑顔の花

それぞれの姿かたちで咲いている花たちのように、光り輝きながら社会で働く人々。元気に「力」を合わせ、明日に向かって飛び立ちます。今日も元気に笑顔いっぱい、大きな花を咲かせよう!

イラストレーター 小沢和夫

# ステークホルダーの皆さまへ

## ■ 社会の一員として

企業の社会的責任(CSR)という考え方が世の中に定着してから、既に四半世紀になります。会社は自社の収益はもとより、社会の一員としての責任を担っていることを強く意識していかなければなりません。

私たちは、CSRの根幹は法令をはじめ、ルールをしっかり守りコンプライアンスを徹底することであり、それが社会から信頼される会社であり続けるための必要条件であると考えています。具体的には自らの日常の行動を見直し、自らを律する姿勢を改めて確認し、確実に日々の行動に反映させていくことです。また地域社会とのつながりも大切にしています。昨年は平成28年熊本地震の復興支援チャリティーイベント「きずな展\*」を開催、CSRの実践に努めました。

## ■ 設立からの60年

私たちは経営信条「三益一如」に基づき、社会益・会社益・個人益を併せて追求することを常に心掛けながら、多くのステークホルダーの皆さまとともに歩んできました。

1955年の設立当時、当社はビジネスフォームの製造・販売を中心としたベンチャー企業でした。まだまだコンピューターの導入は一部の企業に限られ、ビジネスフォームという言葉自体が一般的ではありませんでした。その後OA化社会の進展とともに幅広く利用されるようになり、当社はビジネスフォームを中心にお客さまの大切な情報をお預かりしプリントするデータ・プリント・サービス(DPS)、データ周りのさまざまな業務を代行するビジネスプロセスアウトソーシング(BPO)へとサービスを拡大してまいりました。今後もデジタルハイブリッド®(紙と電子の両面からフォーム・マネージメントを提供するサービス)を加速させ、事務革新のパイオニアとして、常に新しい分野を切り拓いてまいります。同時に大切なお客さまの情報を取り扱う会社として、個人情報保護・情報セキュリティを最重要課題の一つと捉え、トップレベルの情報セキュリティ体制の構築に努めます。

また当社は働き方改革についても労使の優先課題として取り組み、在宅勤務などの制度の導入やスポーツ・健康イベントなどの施策を通じ、女性活躍推進に優れた企業として「なでしこ銘柄」をはじめとして、「攻めのIT経

営銘柄」「健康経営銘柄」「東京都スポーツ推進企業」に選定されるなど、先進企業としての評価をいただくことができました。

現在企業に求められる取り組みは多岐にわたっています。コンプライアンスや情報セキュリティは無論のこと、環境マネジメント、コーポレートガバナンス、事業継続なども重要な企業の社会的責任事項です。併せて企業活動のグローバル化が加速する中、私たちは新たにCSR活動の具体的な指針として国連が提唱する「国連グローバル・コンパクト」に賛同・署名し、昨年7月に参加企業として登録されました。定められた4分野10原則への取り組みを実践するとともに、さらに積極的なCSRへの取り組みを推進し、持続可能な社会の実現を目指します。

## ■ 私たちが目指す“グッドカンパニー”

私たちが目指すグッドカンパニーとは、「社会に貢献する会社」「社員が会社生活を通じて幸せを追求できる会社」「ゴーイングコンサーン(Going Concern: 高い収益を生み出し、成長を続ける会社)」の3つを兼ね備えた会社です。半世紀以上継承してきた「三益一如」の精神のもと、今後とも社業を通じて広く社会に貢献する存在感のある会社を目指してまいります。ステークホルダーの皆さまにおかれましては、当社のCSR活動へのご理解を深めていただき、私たちとの真摯で率直な対話を末永くご継続いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。



代表取締役社長

坂田 甲一

\*きずな展：イベントの趣旨にご賛同いただいたイラストレーターやデザイナー、作家といった多くのクリエイターによりご提供いただいた作品の展示ならびに販売を行い、売上金はすべて日本赤十字社を通じて震災復興支援の義援金として寄付いたしました。2011年にも東日本大震災の復興支援として開催いたしました。

# グループ事業概要

## ■ 会社概要

社 名 トッパン・フォームズ株式会社  
TOPPAN FORMS CO., LTD.  
所 在 地 本社:東京都港区東新橋1-7-3  
会社設立 1955年5月  
資 本 金 117億5,000万円  
売 上 高 2,577億円(2017年3月期連結)  
従業員数 11,673名(2017年3月末現在連結)

## ■ 主要事業所および拠点

本社、東日本事業部、中部事業部、関西事業部、  
西日本事業部、中央研究所、営業所(全国41カ所)、  
生産拠点(全国20カ所)、データセンター(全国2カ所)、  
流通センター(全国7カ所)

## ■ 事業領域

トッパンフォームズは、4つの取り組み領域を効果的に組み合わせることにより「情報」を核としたさまざまなソリューションを提供しています。そしてインフォメーションマネジメント企業として新たな価値を創造し、社会から信頼される企業として、ステークホルダーの皆さまに貢献します。

|              |             |  |
|--------------|-------------|--|
| デジタルハイブリッド事業 | DPS         | 「情報」を取り扱う事務業務について、紙と電子を掛け合わせたハイブリッド型ソリューションの提供により、お客様の事務効率化に貢献します。 |
|              | デジタルソリューション |  |
|              | BPO         |  |
|              | ビジネスフォーム    |  |
|              | 新規他         |  |

|             |           |  |
|-------------|-----------|--|
| ITイノベーション事業 | ペイメントサービス | ITを活用した専門性の高いソリューションの提供により、セキュリティやトレーサビリティなどお客様の業務革新につながる付加価値向上に貢献します。 |
|             | システム運用受託  |  |
|             | RFID      |  |
|             | カード       |  |
|             | 新規他       |  |

|             |      |  |
|-------------|------|--|
| ビジネスプロダクト事業 | 情報機器 | 安心・安全や事務効率化、コスト削減など、さまざまな角度からお客様の高品質な事業運営をサポートします。また印刷物やオフィス用品などの調達業務や購買管理などの一元化を実現するプラットフォームも提供しています。 |
|             | 開発商品 |  |
|             | 新規他  |  |

|         |         |  |
|---------|---------|--|
| グローバル事業 | タイ      | 当社が持つさまざまなソリューションをグローバルな視点で展開することにより、現地の企業はもとより、日本から進出していくお客様のパートナーとして、新しいビジネスチャンスと付加価値を提供します。 |
|         | 香港      |  |
|         | シンガポール  |  |
|         | 新規・新地域他 |  |

## ■ トッパンフォームズ企業グループ(国内)

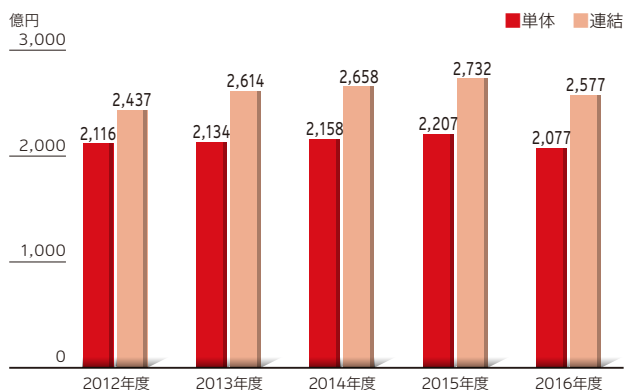
トッパン・フォームズ・セントラルプロダクツ株式会社(TFCP)  
 トッパン・フォームズ東海株式会社(TFT)  
 トッパン・フォームズ・オペレーション株式会社(TFO)  
 テクノ・トッパン・フォームズ株式会社(TTF)\*<sup>1</sup>  
 トッパン・フォームズ・サービス株式会社(TFS)  
 トッパン・フォームズ関西株式会社(TFK)  
 トッパン・フォームズ西日本株式会社(TFN)  
 山陽トッパン・フォームズ株式会社(STF)\*<sup>2</sup>  
 北海道トッパン・フォームズ株式会社(HOTF)  
 株式会社トスコ  
 TFペイメントサービス株式会社(TFPS)  
 沖縄ビジネスフォーム株式会社(OBF)  
 株式会社ジェイ エスキューブ  
 凸版印刷株式会社

## ■ トッパンフォームズ企業グループ(海外)

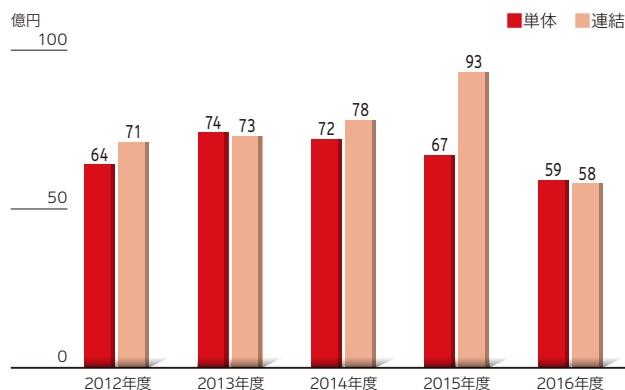
T.F.カンパニー社〔香港〕  
 トッパン・フォームズ(香港)社  
 トッパン・フォームズ・カード・テクノロジーズ社〔香港〕  
 トッパン・フォームズ・コンピュータ・システムズ社〔香港〕  
 マンソン・コンピュータ・フォーム社〔マカオ〕  
 トッパン・フォームズ・インフォメーション・システムズ(上海)社  
 深圳瑞興印刷社  
 トッパン・フォームズ(シンガポール)社  
 データ・プロダクツ・トッパン・フォームズ社〔タイ〕  
 トッパン・フォームズ(コロombo)社  
 CFMトッパン・フォームズ(マレーシア)社  
 浙江茉織華印刷社  
 ホーチミン駐在事務所〔ベトナム〕

## ■ 財務情報

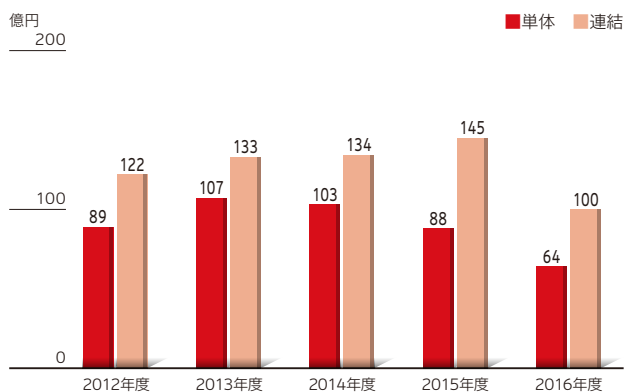
### 売上高



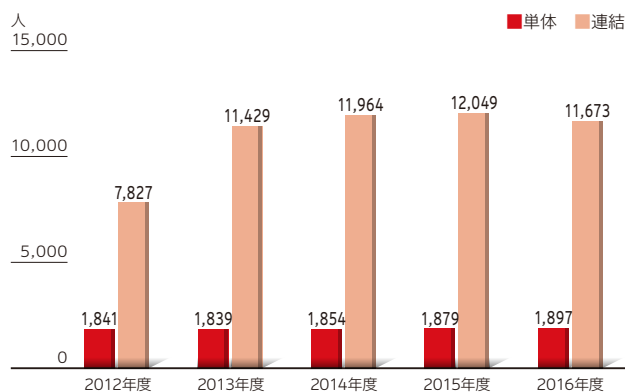
### 当期純利益



### 経常利益



### 従業員数



\*1: テクノ・トッパン・フォームズ株式会社は、2017年4月1日付で、株式会社ジェイ エスキューブと合併しました。  
 \*2: 山陽トッパン・フォームズ株式会社は、2017年4月1日付で、トッパン・フォームズ関西株式会社と合併しました。



**BCP(事業継続計画)とは**

企業が自然災害、大火災、テロ攻撃などの緊急事態に遭遇した場合において、事業資産の損害を最小限にとどめつつ、中核となる事業の継続あるいは早期復旧を可能とするために、平時に行うべき活動や緊急時における事業継続のための方法、手段などを取り決めておく計画のことです。

**トッパンフォームズグループ BCPの取り組み**

当社は大地震などの自然災害、そのほか被害をもたらすインシデントが発生した場合に備え、重要リスクを的確に把握し、対応力のあるBCPを策定することで、事業基盤の強化に必要な有事体制および事前対策を整備しています。

2006年度より首都圏でのBCMS構築に着手し、2010年2月に当時の事業継続マネジメントシステムの国際規格であったBS25999-2の認証を取得し、続いて

ISOへの移行に伴いISO22301の認証を取得しました。いずれも印刷業界として初の取り組みでした。その後も対象範囲を広げた活動に取り組み、最終的には全社レベルでの構築を目指しています。

グループ一体となって、BCP活動の充実を図り、「安心という付加価値」を提供することで、ステークホルダーの皆さまから信頼される企業を目指します。

**2016年度の取り組み①  
災害図上演習**

首都圏を中心としたグループ各社の組織責任者、総務関係者、BCM推進者を対象に防災意識の向上、災害対策の強化を目的に、外部講師による「災害図上演習」を行いました。グループごとに災害時の被害発生場所を予測して地図に書き込み、避難および帰宅経路・場所や職場における初動・復旧対応策を話し合い、災害発生時の危機を確認、気づきの獲得を目指しリスク認識を全員で共有しました。

今後もグループ各社との緊急時の連携強化を図り、重要業務を遂行できる体制をさらに整備していきます。

**VOICE**

今回、参画して本当に良かったと思います。もう一度会社、自宅、地域の備えについて考えていきたいです。



**熊本地震への対応**

2016年4月16日、熊本地域を震源域とする震度7の巨大地震が発生しました。多くの死傷者や建物・家屋等が全半壊などの被害を目の当たりにし、あらためて自然災害への備えの重要性を認識しました。

当社は発災翌日にはグループ運送部門のトラックを準備し、被災地の地域住民、得意先、社員に向けていち早く支援物資を届けました。

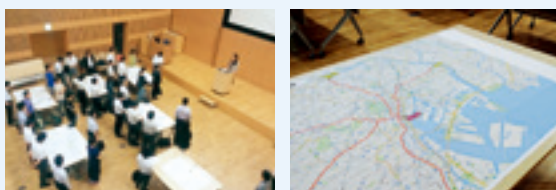


## 2016年度の取り組み②

### 徒歩帰宅訓練

大規模地震が発生した際の従業員の自律的な行動力や、徒歩帰宅が可能か自己判断できる力を高め、またどんな準備が必要かを考える機会とすることを目的に、本社、中部事業部、西日本事業部で「徒歩帰宅訓練」を実施しました。

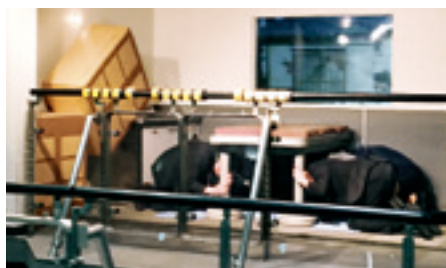
本社では首都直下地震で公共交通機関がすべて停止した状態を想定し、「従業員は本社ビルに待機。会社が徒歩帰宅可能と判断したのち、同方向の者同士、希望者がグループで帰宅する」という設定で実施。参加者は5つの帰宅ルートから自宅方面のルートを選び、帰宅支援場所や危険箇所を確認しながら約



10キロのコースを3時間かけて歩きました。

参加者からは、「災害時、特に女性は公衆トイレが使いづらいはず。学校、コンビニ、店舗などの所在地を載せた地図があると、さらに安心だと思いました。(本社)」や「夜間帰宅を想定し大通り沿いを歩きましたが、ビルのガラス落下などあった場合に危険だと思いました。(西日本)」など、実際に歩いてみて、初めて気づいた内容の感想が多く寄せられました。

参加者からの意見を取り入れた訓練を今後も実施し、従業員一人ひとりが災害に対する心構えと、知識を備えた、災害に強い組織体制を築いていきます。



## 2016年度の取り組み③

### 災害体験訓練

防災に関する知識、技術、行動力をより一層高めてもらうことを目的に、11月と12月に体験型施設(防災館)で災害体験学習を実施しました。

実際に風速30メートル・時間雨量30ミリの暴風雨も体験、視界はおろか呼吸にも支障が出るほど強烈でした。高い技術を取り入れたシミュレーション装置を活用し、地震、消火、暴風雨、煙避難などを疑似体験したことで、日頃から訓練しておくことが、緊急時の正しい判断と素早い行動を導き、生死を分ける可能性があることを痛感しました。

今後もこのような訓練を取り入れて、従業員の防災に対する知識を高めていきます。

#### VOICE

大規模震災からしばらく時間が経つと、防災に対しての意識が薄れてしまいがちです。今回の研修を経て、災害の恐ろしさや防災の重要性を再認識することができました。

## 経営層からのメッセージ



専務取締役  
亀山 明

当社は他社に先駆けてBCPに取り組み、万一被災した際にお客さまへの影響が大きい事業から順次認証を取得してきました。従業員の安全確保を第一に、災害に強い体質づくり、被災時の早期復旧、緊急時の代替生産について取り組んでいます。昨年の熊本地震では、全国で進めてきた生産設備の耐震対策により短期間で操業を再開でき、他工場による代替生産もスムーズに行えました。日頃の準備や活動の成果だと考えています。今後もさらに強い体質づくりを目指すとともに、営業活動においてもプラスとなるよう努めていきます。

# 社会とのつながり 地域、社会とのきずな

当社は、事業所周辺や自治体の清掃活動への参加や、地域協議会への参加などを通じ地域とのコミュニケーションを図っています。また地域社会に対する責任を果たすため、社会貢献活動への参加やチャリティイベントの開催など、さまざまな活動に積極的に取り組んでいます。

## トッパンフォームズグループのCSR

私たちトッパンフォームズグループは1965年の創業時に経営信条として、社会益、会社益、個人益からなる「三益一如」を掲げました。社会の要請やお客さまの課題・期待に応じてイノベーションの扉を開き、新しい価値創造をすすめる「社会益」、企業として適正な利潤を上げ、お客さまとともに長期にわたって持続的な成長を追求していく「会

社益」、従業員一人ひとりが規範を守り、豊かな生活を実現していく「個人益」。

この三益が一つになって初めて、世界のために、社会のために、環境のために責任を果たし、力強く貢献することができる。トッパンフォームズグループでは、この「三益一如」を核としたCSR活動を推進しています。

### 2016年度の取り組み①

## 八王子環境フェスティバル

2016年6月に、TFCP滝山工場の所在地、東京都八王子市で開催された「八王子環境フェスティバル」にワークショップを出展しました。きっかけは、八王子市環境政策課の方からのお声掛けで、今回初めての参加となりました。

滝山工場周辺は多くの自然に囲まれ、四季折々の景色が楽しめます。この環境を守るために、当社グループとしても、工場の運営にはより一層の配慮を心がけています。

今回の出展にあたり、当社の環境への取り組みを紹介するとともに、地域の方々にTFグループをより身近に感じてもらえるような企画を検討。当社主要事業であるビジネスフォームの製造過程で排出される連続用紙の紙端「マージナルパンチ」を使ったワークショップを実施し、当社ブース来場者は600名以上と大盛況でした。

当社グループのCSR活動を認知いただき、また地域の方とのコミュニケーションを築ける場として、今後もこのようなイベントに積極的に参加していきます。



### VOICE

6月5日は、環境基本法に定める「環境の日」です。

「環境」の定義も歴史とともに変化してきましたが、今や企業活動や市民生活とは、切っても切れない課題となっています。八王子環境フェスティバルの歴史は、平成3年開催の「川に親しむ市民の集い」から22回目となり、毎年環境月間である6月の第一土曜日に開催しています。八王子駅周辺に60を超える企業・市民団体ブースに参加をいただき、趣向を凝らし行っています。



特に最近では参加型のイベントが主軸になってきていますので、新しい発見とワクワクが皆さまをお待ちしています。

八王子環境フェスティバル実行委員会  
委員長 青木 訓行 さま



## 2016年度の取り組み② 平成28年熊本地震復興支援

### クリエイターズ・チャリティー「きずな展」

2016年4月に発生した熊本地震の復興支援を目的に、7月1日～10日、本社1階オープンスペースにてクリエイターズ・チャリティー「きずな展」を開催しました。

きずな展は2011年3月の東日本大震災に際して、当社とつながりのあるクリエイターの「何かしたい」という気持ちを、情報伝達というインフラを支える企業として、当社のデジタル印刷技術などを活かし形にすることで、復興を支援するという目的で2011年5月に開催。この度の熊本の震災においても同様の声が上がリ、当社のCSR活動の一環として開催しました。

今回のきずな展にはイラストレーターやデザイナー、作家など198名の方から240点の作品をご提供いただきました。熊本城や阿蘇山などをモチー

フにした作品も多く、作品は「オークション」と当社のデジタル印刷による「作品ポストカード」として販売し、広く一般の方々から義援金のご協力をいただきました。

会期中は1,500名を超える方にご来場いただき、オークション、ポストカード販売を合わせた売上金約420万円はその全額を、日本赤十字社を通じて復興支援の義捐金として寄付しました。

#### VOICE

2011年の東日本大震災復興支援と今回の熊本と2度にわたりお手伝いしました。

永年クリエイター業界に築いた広い人脈を活かし、あらゆるジャンルを超えた各界の人々に呼びかけてご協力をいただきました。突然の呼びかけにもかかわらず、多くのクリエイターに新作を描いていただき、大変感謝しています。サン・アドの葛西薫さんに描いていただいた「きずな展」のマークは



この活動のシンボルとなりました。

今後もこのマークのもと、社会に貢献できる活動をクリエイターとともに続けていきたいと考えています。

株式会社オフ・クリエイトークリ8  
代表 小山 英夫 さま



## 2016年度の取り組み③

### Hong Kong & Kowloon Walk for Millions

海外



2017年1月8日にトッパンフォームズ(香港)グループ(TFHKG)は、香港共同救済基金主催のウォーキングイベント“Hong Kong & Kowloon Walk for Millions”に従業員とその家族の総勢86名で参加しました。香港スタジアムからスタートし、ゴールのアバディーンカンントリーパークまでの約10キロの道のりを皆で歩き、無事にゴールすることができました。

このイベントへの参加費は、家族のきずなの維持・強化と家族間の相互のサポート確立を支援するために、香港共同救済基金を通じて全額、家庭/児童福祉局に寄付されます。

よりよい社会づくりを目指すべくTFHKGは、今後も社会貢献およびチャリティーイベントに参加していきます。

## 経営層からのメッセージ



経営信条である三益一如は、環境においても人、会社、社会がともに生き、ともに創るという循環により持続可能な社会づくりを目指しています。当グループでは日本のみならず、グローバルにおいてアジア地域を中心に事業活動を展開していますが、各国各地域の方々とのコミュニケーションを大切にしながら、今後も従業員一人ひとりの意識から始め、トッパンフォームズグループらしい伝える、伝わるCSR活動を進めてまいります。

執行役員総務本部長(兼ダイバーシティ推進部長)  
寺上 美智代

# トッパンフォームズのCSR

当社は、経営信条である「三益一如」を基本理念としCSR活動を推進しています。

## CSRの基本的な考え方

私たちは創立以来、経営信条である「三益一如」を企業活動の基本としてきました。この「三益一如」は社会益・会社益・個人益の「三益」からなり、この三つの「益」に優劣をつけることなく「一つの如く」扱い、どれか一つでも欠けてはならないという理念です。この考えは創業から半世紀が経った今でも薄れることなく行動の基本として受け継がれています。

CSRという言葉が一般に使われるようになった当初は、企業のCSRはコンプライアンス・環境マネジメント・社会貢献活動など本業以外での活動が中心でした。近年はこれらの活動に加えCSV(共通価値の創造：Creating Shared Value)への取り組みに注力する企業が増えています。CSVの基本は「私たちの提供する製品やサービスがお客さまの役に立ち、喜んでいただくとともに社会をより良くすること」、つまり社会に貢献し、それが会社

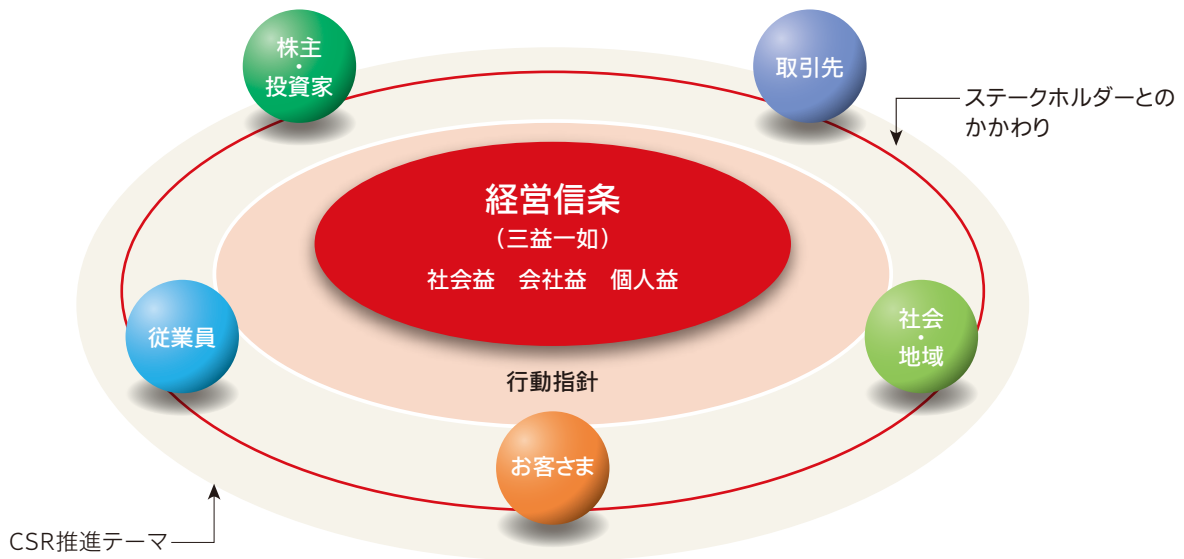
や個人の益につながっていくという考え方であり、私たちの「三益一如」そのものです。

今後も私たちは経営信条にある事務革新のパイオニアとしての精神を忘れずに、社業を通じて「三益一如」を実現していくことで、ステークホルダーの皆さまから信頼される企業となれるよう、グループ全員が一丸となり、さらなる高付加価値企業を目指し、社会的責任を果たしていきます。

## 経営信条と行動指針

経営信条「三益一如」を実践するために、従業員が取るべき行動を示したものが「トッパンフォームズグループ行動指針」で、10項目の基本原則と55項目の具体的な指針で構成されています。2013年3月には具体的な120の事例をまとめた「行動指針ケースブック」を作成し、全従業員への浸透を図っています。

## トッパンフォームズのCSRの考え方



### 経営信条「三益一如」

#### 社会益

私たちは事務革新のパイオニアとなり日本経済発展のために寄与いたします

#### 会社益

私たちは事務革新のパイオニアとなり会社の発展向上のためにつくします

#### 個人益

私たちは事務革新のパイオニアとなり自分の幸福を築くために頑張ります

### 行動指針「基本原則」

1. 基本的人権を尊重する
2. 高い倫理観を持ち、良識ある社会人として行動する
3. 法令および社内規程を遵守し、公正に業務を遂行する
4. 反社会的勢力との一切の関係を遮断する
5. 品質の向上に努め、お客さまの満足に資する作品を提供する
6. 事業に関わる情報の重要性を認識し、適切に管理する
7. 地球環境の保全に積極的に取り組む
8. 変化を捉え、新たな可能性に挑戦する
9. 社会貢献活動や適切な情報開示を通じて、社会からの信頼を醸成する
10. 個々の力を結集し、グループ総合力を最大限に発揮する

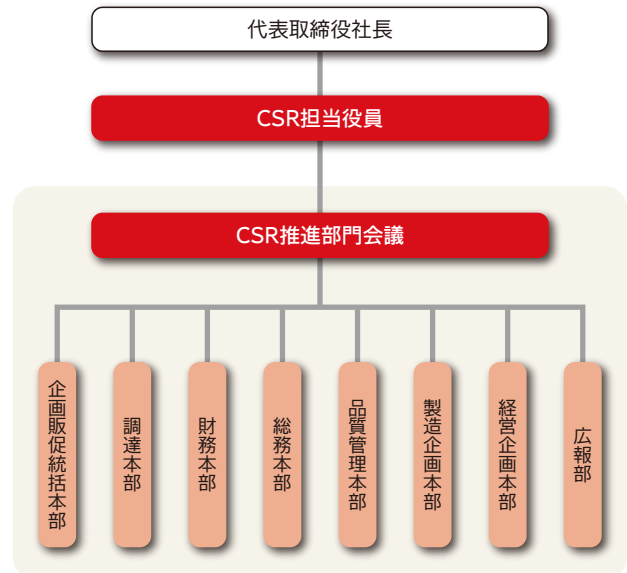
## CSR推進テーマの設定・運用

当社は、かかわりの深い5つのステークホルダーである「お客さま」「取引先」「社会・地域」「株主・投資家」「従業員」に対し各部門がCSR推進テーマを設定し、年間を通じてCSR活動を推進しています。2016年度も年初に設定した推進テーマに沿って活動し、その達成状況および結果を踏まえた2017年度の設定テーマをP10-11に記載しました。

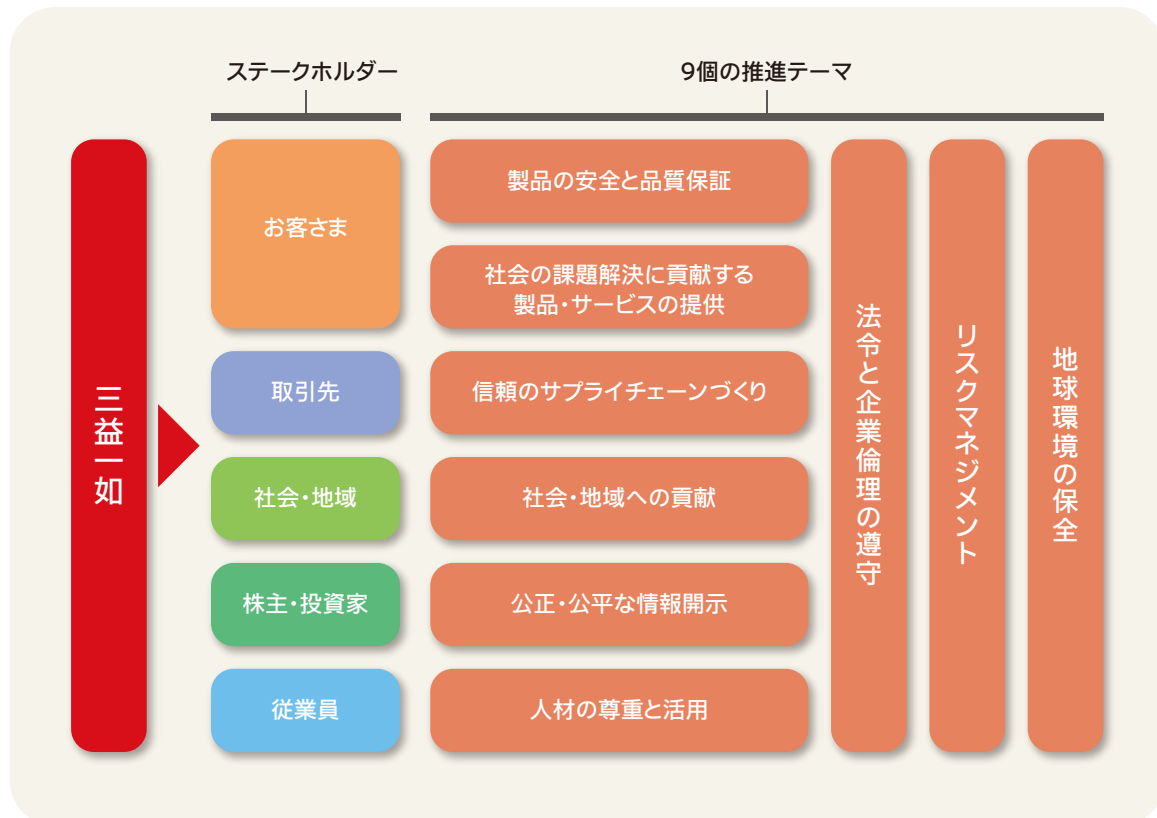
## CSR活動の推進

本社の管理部門により構成されるCSR推進部門会議を適宜開催し、相互に連携をとってCSR活動を推進しています。CSR推進部門会議は、CSR担当役員によって統括され、代表取締役の意向を直接受ける形となっています。

CSRの推進体制



CSR推進テーマ



# 2016年度の実績と2017年度の施策

| ステークホルダー          | 推進テーマ                 | 取り組むべき項目                      | 2016年度の主な目標または施策   |
|-------------------|-----------------------|-------------------------------|--|
| すべて<br>(マネジメント体制) | 法令と企業倫理の遵守            | コンプライアンス推進活動による法令や行動指針への意識向上  | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 行動指針の周知徹底によるコンプライアンス意識向上と実践の促進</li> <li>● 推進責任者・推進リーダーのサポート強化とフォローアップ</li> <li>● 独禁法・下請法をはじめとする業務関連法規の遵守徹底</li> <li>● グループ会社の連携強化による充実したコンプライアンス活動の実践</li> </ul>  |
|                   | リスクマネジメント             | 情報セキュリティと事業継続を中心としたリスク管理体制の構築 | <ul style="list-style-type: none"> <li>● サイバーセキュリティ対策の強化</li> <li>● セキュリティインシデント対応体制の強化</li> <li>● 海外グループ会社における情報セキュリティ体制の構築</li> <li>● 従業員のセキュリティ意識向上に向けた取り組み</li> <li>● 情報セキュリティの内部監査員の養成とレベルアップ</li> <li>● 首都圏における事業継続力強化に向けた訓練の実施</li> </ul>   |
| お客さま              | 製品の安全と品質保証            | 予防処置活動と品質設計の徹底                | <ul style="list-style-type: none"> <li>● マネジメントシステム(ISO9001)の活用</li> <li>● DR(設計開発)の強化および4M変更管理実施による事故防止</li> <li>● 商品事業部取扱品のリリース判定システムの運用</li> <li>● 安定品質のための仕様凍結およびプログラム凍結意義の啓発</li> <li>● 複合案件(Web、DPS、BPO)の品質保証力強化</li> </ul>  |
|                   |                       | 品質保証・向上                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 一通一枚単位の品質保証(個別保証システムの拡大)</li> <li>● 標準化・機械化の推進</li> <li>● 統計的品質管理・行為保証の教育</li> <li>● DPS開発ルールブック作成・浸透教育実施</li> <li>● ヒューマンエラー防止教育の実施</li> </ul>   |
|                   | 社会の課題解決に貢献する製品・サービス提供 | 社会の課題解決に貢献する製品・サービスの提供        | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 高機能保冷剤によるドライアイス代替市場の創出(400百万円)</li> <li>● 保冷剤を使用した医薬品の定温輸送実現による安定品質の提供(100百万円)</li> <li>● 保冷剤を使用した三温度帯配送をサポートし環境負荷を軽減(100百万円)</li> <li>● 企業の災害対策に防災備蓄品を販売(100社)</li> </ul>  |
| 取引先               | 信頼のサプライチェーンづくり        | CSR調達基準に基づく取引の徹底              | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 調達用紙メーカーの原料合法性確認品の継続購入(100%)</li> </ul>   |
| 社会・地域             | 社会・地域への貢献             | 社会貢献活動                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 汐留本社および他事業所における献血活動への協力：目標延べ400名</li> <li>● 東京都グリーンシップアクションなどの環境保全活動への参加(100名)</li> </ul>   |
|                   |                       | 地域貢献活動                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域・事業所周辺の清掃活動などへの参加(200名)</li> <li>● 工場見学、就業体験、各種イベントの開催・参加(20件)</li> </ul>   |
| 株主・投資家            | 公正・公平な情報開示            | IR活動の充実                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 統合報告書の内容を拡充</li> <li>● 事業別説明会開催や施設見学会などの機関投資家向けのイベントを拡充</li> <li>● 個人投資家向けの取り組みを拡充</li> </ul>   |
| 従業員               | 人材の尊重と活用              | 安全な職場環境の実現                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 安全衛生防火体制の強化<br/>労働災害防止活動の実施(0件)、防火防災活動の実施(2回)、救命講習訓練の実施(2回)、安全運転講習の実施(2回)</li> <li>● 健康経営の推進<br/>ストレスチェック実施(1回)、メンタルヘルス教育の実施、スポーツイベントの実施、健康イベントの実施</li> </ul>   |
|                   |                       | 多様な人材の育成・活用                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 過年度採用、通年採用、非正規雇用からの正社員登用<br/>新卒女性採用比率50%(大卒女性採用比率50%)</li> <li>● 障がい者雇用率2.0%以上の達成</li> <li>● グローバルビジネスリーダー育成 グローバルマネジメントスキル習得 12名</li> <li>● キャリアデザイン研修充実化 35歳、45歳、2回実施 対象237名</li> <li>● 自己啓発プログラム充実化<br/>オンラインビジネススクール導入、リベラルアーツプログラム、ビジネス基盤力プログラム増加</li> <li>● 女性管理職の育成</li> </ul> |
| 環境                | P34参照                 |                               |  |

※1：DR(デザインレビュー：設計開発) ※2：EFMS(エンタープライズフォームマネジメントサービス) ※3：インサーター(封入封緘機)

| 2016年度の主な活動内容と成果   | 年間評価                       | 2017年度の主な施策  |
|--|----------------------------|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>● 行動指針に基づき、最新事例なども取り込んだ階層別・部門別の研修実施</li> <li>● リーダーへのサポート、リーダー制度の浸透度の調査実施</li> <li>● 独禁法、下請法に関する研修を対象者を拡大して実施</li> <li>● グループ会社での行動指針研修、および知的財産、契約に関する研修を実施</li> </ul>  | A<br>B<br>A<br>A           | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 各種教育の実施と情報提供による行動指針の浸透</li> <li>● コンプライアンス推進リーダー活動の充実</li> <li>● 部門別・階層別教育によるコンプライアンス意識と理解度の向上</li> <li>● グループ会社のコンプライアンス意識の向上</li> </ul>   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>● サイバーインシデント対応の多層化の実施<br/>統合ログ管理によるログ分析開始、内部からの外部への通信監視強化、サイト閲覧監視と月次レポートによる管理強化、URLフィルタ、サンドボックスおよび中継サーバの導入、標的型攻撃対応訓練を継続実施(毎月)</li> <li>● TF-CERT、TF-SOCの増強、外部団体(日本シーサート協議会など)への参加、凸版印刷との情報交換会を定期実施</li> <li>● グローバル情報セキュリティ管理規程の制定(2017年4月施行)、定期ミーティング(毎月)の実施、Webプロキシサーバ導入による閲覧制限、PC監視・書き出し制御の導入、SNS利用の棚卸と全社制限、モバイルPCの利用制限の開始</li> <li>● 本社部門での試行を踏まえ、台帳を用いない社内情報資産の管理手法を再検討</li> <li>● 全国で監査員養成講座を8回(136名受講)、監査員フォローアップ研修を2回(226名受講)を実施</li> <li>● 本社において徒歩帰宅訓練を2回(39名参加)、災害図上演習を1回(50名参加)、自衛消防隊体験訓練を2回(52名参加)などを実施</li> </ul> | A<br>A<br>A<br>B<br>A<br>A | <ul style="list-style-type: none"> <li>● サイバーセキュリティの重点強化</li> <li>● 海外グループ会社の情報セキュリティ統制・管理体制の確立</li> <li>● TFグループ全社情報セキュリティ管理水準の向上</li> <li>● 大規模災害を想定した訓練の強化</li> </ul>   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>● 外部審査(対象15事業所)、内部監査(対象25事業所)を通して運用状況を確認、20事業所においてISO9001:2015年版適合に向けた指導を実施</li> <li>● 年間29件のDR<sup>(*)</sup>を実施、対象案件での事故0件を達成</li> <li>● 品質管理委員会内でDR<sup>(*)</sup>運用、年間8件(下期4件)に対応</li> <li>● 仕様凍結率87.3%を達成</li> <li>● EFMS<sup>(*)</sup>など複合案件での事故0件を達成</li> </ul>  | S<br>S<br>B<br>B<br>S      | <ul style="list-style-type: none"> <li>● マネジメントシステム(ISO9001)の活用(目標2015年度版移行)</li> <li>● DR<sup>(*)</sup>の強化および4M変更管理実施による事故防止</li> <li>● デジタルハイブリッド業務フロー見直しによる事故防止</li> <li>● DPS事業所、BPO拠点のヒューマンエラー防止のための教育実施</li> </ul>   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>● インサーター<sup>(*)</sup>ログ監視実施率91%、9事業所中4事業所で100%実施</li> <li>● ハンディーリーダーでの機械化を推進するが、目視作業での事故0件は未達</li> <li>● 多層ラベル製品で剥離強度測定方法を変更、事故0件を達成</li> <li>● 基本ルールを策定し対象者全員に向け教育を実施したが、プログラム事故0件は未達</li> <li>● ヒューマンエラー教育資料を見直し工場新人教育を実施したが、事故0件は未達</li> </ul>   | B<br>B<br>A<br>B<br>B      | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 国内外の協力会社への品質監査実施による品質向上、改善指摘100%改善の実施</li> <li>● 社内外データ交換基盤となる「PDFデータ」の品質安定化による品質事故の防止</li> <li>● 封書検査による員数保証100%によるDPS製品一通一枚単位の品質保証の実施</li> <li>● DPS工場の品質保証のための機械化推進に向けた新規物件へのQR付与100%の実現</li> </ul>  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>● ドライアイスの代替として運送会社のセンター店舗間でテスト運用、目標未達</li> <li>● 医薬卸会社でGDP(医薬品の定温輸送に関するガイドライン)を視野に保冷箱を導入、目標未達</li> <li>● 運送会社で冷凍用保冷箱を導入、通信販売で生鮮品輸送のテスト運用を実施、目標の47%増</li> <li>● 得意先セミナー等の販促支援策により197社で採用</li> </ul>  | B<br>B<br>A<br>S           | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 高機能保冷剤によるドライアイス代替市場の創出</li> <li>● 医薬品の定温輸送実現による安定品質の提供</li> <li>● 三温度帯配送をサポートし環境負荷を軽減</li> <li>● 防災備蓄ソリューションの訴求</li> <li>● 飲料品だけでなく安全衛生を考慮した防災備蓄商品の販売(目標200社)</li> </ul>  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>● 全仕入先から合法性確認調査票を取得済、継続して仕入先を限定して購入</li> </ul>  | A                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 調達用紙メーカーの原料合法性確認品の継続購入</li> <li>● CSR調達に関する取引先との関係強化</li> </ul>   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>● 夕留を中心に全国の事業所、工場で実施(374名参加)</li> <li>● 東京グリーンシップアクション、木漏れ日の森整備支援活動などに参加(計64名参加)</li> </ul>   | A<br>B                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 日本赤十字社の献血運動への協力推進(目標400名)</li> <li>● 社会貢献活動(テーブルフーズ、エコキャップ運動など)への参加(前年度比3%増)</li> <li>● 自然保護活動(東京都グリーンシップアクションなど)への参加(目標100名)</li> </ul>  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>● 全国の事業所で事業所周辺や地域の清掃活動に参加(計316名参加)</li> <li>● 事業所周辺の地域イベントに参加(20件)、工場を中心に事業所見学・就業体験(11件)に協力</li> </ul>  | S<br>S                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域や自治体および事業所周辺の清掃活動などへの参加(目標500名)</li> <li>● 地域のイベント、コミュニケーション活動(工場見学、就業体験)への参加、協賛(目標30件)</li> </ul>  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>● コーポレートガバナンス、研究開発、人材など非財務情報を拡充し、8月に発刊</li> <li>● 施設見学会を4月に実施、事業別説明会については開催内容を検討</li> <li>● 株主通信のコンテンツを拡充、個人株主向けのアンケートを実施(回収率は7.0%)、新たに個人投資家向けのイベントに出展</li> </ul>   | A<br>B<br>A                | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 機関投資家との対話(事業別説明会、施設見学会の拡大など)の深化</li> <li>● 個人株主、個人投資家への取り組み(株主通信の内容充実、個人投資家向けIRイベントへの出展など)継続</li> <li>● 統合報告書の内容のさらなる充実</li> </ul>  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>● グループ全体の休業災害件数9件</li> <li>● 自衛消防隊訓練、災害体験訓練、徒歩帰宅訓練、災害図上訓練等を実施(計7回)、他に安否確認訓練(毎月)を実施 芝消防署長「自衛消防組織業務適切功勞」表彰</li> <li>● 救命講習会、応急救護訓練を実施(計3回)</li> <li>● 新人安全運転講習、自転車事故講習会を実施(計2回)</li> </ul>  | B<br>S<br>A<br>A           | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 安全衛生防火活動の推進</li> <li>● グループ全体の休業災害件数0件の達成、安全衛生体制の強化と活動の充実、企業防災の推進、自衛消防隊への教育実施、防火・応急救護・救命講習の実施、地域交通安全活動と安全運転講習実施</li> </ul>  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>● ストレスチェック事後措置として管理職向けワークショップを実施(16回)</li> <li>● アンガーマネジメント研修、管理職向けメンタルヘルス研修、セルフケア実施</li> <li>● スポーツイベントとして野球大会、フットサル大会を実施</li> <li>● 健康イベントとして肺年齢測定会、健康経営セミナー、歯科検診イベント、噛む力チェック、オフィスヨガを実施、他に本社でインフルエンザ予防接種実施</li> </ul>   | A<br>A<br>A<br>A           | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 健康経営の推進</li> <li>● 被扶養者検診受診率75%達成、ストレスチェック受診率95%の達成、職場環境の改善実施、メンタルヘルス教育、スポーツイベント、健康イベントの実施</li> </ul>   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>● キャリアリターン採用含む中途採用13名、新卒女性採用比率47.4%</li> <li>● 単体での通年雇用率2.6%を達成(各月とも2.4%以上)</li> <li>● グローバル&amp;ダイバーシティマネジメント研修実施、9名が受講</li> <li>● キャリアデザイン研修の実施(35歳対象者75名、45歳対象者5名)、組織内活性化に向けコミュニケーションスキルアップ研修の実施(59歳対象者48名)</li> <li>● 外部公開型派遣研修に157名、通信教育に101名、外部セミナーに28名が受講</li> <li>● 基本研修、候補者研修、上司向け研修、フォローアップ研修をグループ会社含め実施、新たに女性営業キャリア開発研修を開始、新規女性管理職層に5名登用</li> </ul>  | B<br>A<br>B<br>B<br>B<br>A | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 過年度採用、通年採用、非正規雇用からの正社員登用</li> <li>● 新卒女性採用比率50%(大卒女性採用比率50%)</li> <li>● 障がい者雇用率2.3%以上の達成</li> <li>● グローバル&amp;ダイバーシティ人材育成研修の実施</li> <li>● 新事業・新市場開拓のためのビジネス基盤強化研修の実施</li> <li>● 女性管理職育成研修および上司向け研修の実施</li> <li>● 女性管理職層の育成</li> <li>● 男性の育児休業取得促進</li> <li>● ITリテラシー、専門分野向上研修の実施</li> </ul> |

評価基準:S・・・目標を大幅に上回る成果があった A・・・目標を概ね達成できた B・・・積極的に取り組んだが目標達成には至らなかった C・・・取り組みが不十分だった

# マネジメント体制



## トッパンフォームズの取り組み

トッパンフォームズでは「三益一如」のもと、企業の社会的責任(CSR)を果たすための具体的な行動規範として「トッパンフォームズ行動指針」を定めています。

そしてステークホルダーとの間により強い信頼関係を築くために、「コーポレートガバナンス基本方針」を定め、その実践と継続的な見直しを実施するとともに、個人情報取扱事業者としてセキュリティポリシーに基づいた情報管理体制の強化、事業継続マネジメントシステム(BCMS)の適用範囲拡大、リスクマネジメントに対する全社的な取り組み、コンプライアンス遵守などの企業価値を高める活動に日々努めています。

2016年度も情報セキュリティ、事業継続など各分野において新しい取り組みを行っています。

# リスクマネジメント

トッパンフォームズグループ全社にまたがる管理体制を構築し、リスクマネジメント活動に取り組んでいます。

## ■ リスクマネジメントへの取り組み

当社は、2001年にトッパンフォームズグループにおけるリスクマネジメント基本方針を策定し、グループ全体を網羅した体制のもとで、リスクマネジメント(RM)活動を推進してきました。

### リスクマネジメント基本方針

トッパンフォームズグループをとりまく事業環境の変化はめまぐるしく、それに伴うリスクも複雑多岐に亘ってきています。この多様なリスクにグループ全体で積極的・持続的に取り組み、事業を継続させることは、社会・会社・個人相互の利益に大きく寄与し、ひいては企業価値を向上させるものであります。トッパンフォームズグループは、「リスクマネジメント活動は利益の源泉」と捉え、次に示す方針のもと全社を挙げて取り組んでいます。

1. トッパンフォームズグループのさまざまなリスクを統括管理し、総合的なリスクマネジメント活動の推進により、経営資源の保全と有効活用を図ります。
2. 全ての組織でリスクの認識・評価・低減活動を日常業務の中で繰り返し行い、リスク対応力の向上を図ります。
3. 災害時には、人命の安全を第一に捉え地域社会と協調し、そのうえで可能な限り事業の継続を図ります。そのための態勢を整え、社会的要請に応えます。
4. 緊急事態発生時には、適切で速やかな対処で関係者の被害を最小限にとどめるとともに、早急な復旧を図ります。
5. 教育や訓練等の啓発活動とリスク情報の共有化により、リスク意識の浸透とリスク感性の醸成を図ります。

## ■ リスクマネジメント体制と活動

グループ各社を含む全社を統括する全社統括RM委員会のもとに全社に関連するリスクを5つのカテゴリーに分けた専門委員会と、組織またはグループ会社ごとに組織する組織別RM委員会を設置し、リスク管理の活動を推進しています。

全社統括RM委員会は毎月開催され、全社の活動方針を明確にするとともに、専門委員会の年度計画に基づくリスク対応活動の進捗確認、組織別RM委員会のリスク対応活動の確認、新たなリスクへの対応などを行っています。

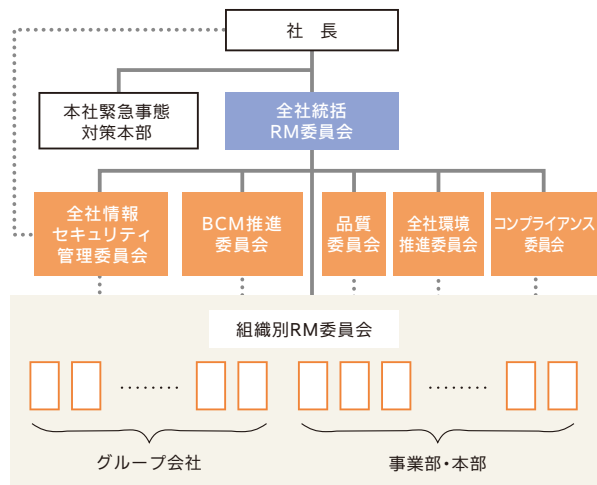
専門委員会は全社情報セキュリティ管理委員会、BCM推進委員会、品質委員会、全社環境推進委員会、コンプライアンス委員会の5つからなり、具体的にリス

ク予防活動を計画・推進しています。

組織別RM委員会は自組織のリスクの洗い出し・評価・重要リスクの特定を行い、年間を通してその対応活動を実施しています。

また経営危機発生時には、迅速に対応するために本社緊急事態対策本部を設置し、現地と連携して、事案の早期解決と再発防止に向けた取り組みを行っています。

### リスクマネジメント体制図



## 2016年度の主な活動

### ● 救命講習会の実施

最寄りの消防署の指導のもと、年2回の救命講習を実施しています。受講対象は新入社員・本社ビル内の自衛消防隊員のほか、希望があれば誰でも参加し技術を身につける場として活用しています。

### ● 本社ビルにおける避難・消防訓練の実施

汐留本社ビルでは消防計画に従い、年2回の消防・避難訓練を全従業員参加で実施しています。避難先である1階多目的ホールでの点呼後に、防災に関する説明会を実施し、従業員の意識づけにつなげました。



# コーポレートガバナンス

経営における公平性、透明性を高め、ステークホルダーの皆さまからの信頼を築き、企業価値の向上を目指します。

## 基本的な考え方

当社は経営信条「三益一如」のもと、社会からの信頼をより強固なものにするとともに、さまざまなステークホルダーからの期待に応えるため、企業価値、株主価値のさらなる向上を目指しています。

これらの実現のためには、すべての事業活動を自ら監視し、統制する仕組みであるコーポレートガバナンスが極めて重要な経営課題であると認識しています。

## コーポレートガバナンス体制

### 取締役会

取締役会は独立社外取締役2名を含む11名で構成されており、月1回定例取締役会を開催しています。当社グループの重要事項について意思決定するとともに、取締役・執行役員の職務執行の監督を実施しています。取締役会で意思決定すべき事項を含む経営上の重要な案件については、代表取締役が指名した役員で構成される経営会議で事前に審査することにより、経営効率を高め、適正な経営判断が行われるよう努めています。

### 監査役・監査役会

当社は監査役会設置会社であり、監査役会は2名の社外監査役を含む監査役4名で構成されています。監査役

会の定期開催、取締役会や重要な会議への出席、事業所の監査を通じて、取締役や各部門の業務の適法性・適正性の監査を行います。また定期的に社外取締役・会計監査人や内部監査室およびグループ会社の監査役との情報共有を図り、当社グループとして実効性の高い監査を行うよう努めています。

### その他

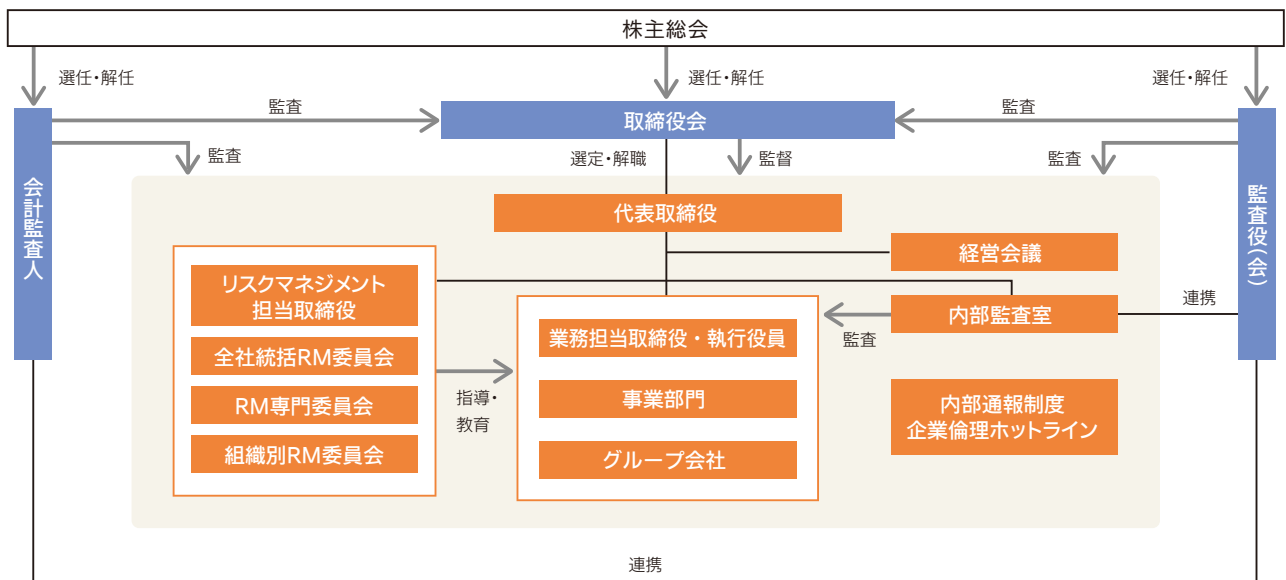
業務執行部門から独立した内部監査室を設置し、内部統制監査と業務監査を中心に、グループ会社を含む各事業所において監査を実施しています。

またコーポレートガバナンスにおいて、危機管理体制の確立は重要なポイントとなります。当社においては、リスクマネジメント担当取締役を委員長とする全社統括リスクマネジメント(RM)委員会のもとにリスク管理体制を構築し、リスク回避の施策の検討・実施、緊急事態対応などを行っています。

## コーポレートガバナンス基本方針

当社は、コーポレートガバナンスに関する方針、取り組み内容およびコーポレートガバナンス・コードへの対応状況についてまとめた「コーポレートガバナンス基本方針」を2015年11月に制定し、当社ホームページにおいて開示しています(英文版も開示しています)。

### コーポレートガバナンス体制図







<http://www.toppan-f.co.jp/etc/governance.html>

### コーポレートガバナンス基本方針の項目

1. コーポレートガバナンスに関する基本的な考え方
2. 株主の権利・平等性の確保
  - (1) 株主の権利・平等性の確保
  - (2) 株主総会
  - (3) 資本政策
  - (4) 政策保有株式
    - ① 政策保有に関する方針
    - ② 議決権行使の基準
3. 株主以外のステークホルダーとの適切な協働
  - (1) 行動指針
  - (2) CSR
  - (3) 多様性
  - (4) 内部通報制度
4. 適切な情報開示と透明性の確保
5. 取締役会等の責務
  - (1) ガバナンス体制
  - (2) 取締役の報酬
  - (3) 取締役、監査役の指名
  - (4) リスク管理体制
  - (5) 独立社外取締役
  - (6) 実効性確保
  - (7) 監査役、監査役会
  - (8) 会計監査人
  - (9) トレーニング
6. 株主との対話

### 基本方針のポイント

#### ●株主の権利・平等性の確保

- ・当社は、株主の権利が確保されるように対応を行うとともに、その権利を行使することができる環境を整備いたします。
- ・当社は、株主の平等性の確保や、少数株主の権利行使の確保について十分な配慮を行います。
- ・当社が、その役員や主要株主との取引（関連当事者間の取引）を行う場合には、取締役会にて審議、承認を行います。

#### ●適切な情報開示と透明性の確保

- ・当社は当社の財政状態、経営成績などの財務情報や、経営戦略、経営課題、リスクやガバナンスに係る情報などの非財務情報について、法令に基づく開示を適切に行うとともに、法令に基づく開示以外の情報提供にも主体的に取り組んでまいります。

#### ●取締役会の実効性の確保

- ・取締役会は、取締役に求められる義務を履行可能な者の中で、さまざまな知識、経験、能力を有する者により定款の定める員数内で構成しています。また豊富な経験および見識を有する者の意見を当社の経営に反映させるため、社外取締役を選任しています。
- ・取締役会は毎年、取締役会全体の実効性について自ら評価を行い、その機能向上を図ります。また評価結果の概要について開示しています。

#### ●株主との対話

- ・当社は、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上のため、株主を含むさまざまなステークホルダーとの対話を行い、その中で寄せられた意見や要望を経営に反映させることで、ステークホルダーとともに成長していくことを目指しています。

当社はこの基本方針の実践を通じて、公平性、透明性を確保するとともに、コンプライアンスや企業倫理など社会的責任を果たしながら、さらなる成長と企業価値の向上を図ってまいります。

# コンプライアンス

CSR活動の基盤となるコンプライアンス(法令遵守)について、さまざまな実践に取り組んでいます。

## ■ 行動指針の浸透

当社グループの行動指針は、経営信条「三益一如」のもと、法令などの遵守の徹底と企業倫理の確立を目指して、10の基本原則と55の具体的指針を置き、従業員に行動の規範を示しています。

### コンプライアンス推進リーダー制度

行動指針の日常活動レベルでの定着のために各職場でコンプライアンス推進責任者・推進リーダーを選任し、従業員のサポートを行っています。

推進リーダーは行動計画に基づき自ら率先して行動指針に則した行動を取るとともに、各職場内に行動指針を浸透させ、職場における相談窓口として法務部門とのパイプ役となることが期待されています。

### 行動指針関連ツールの活用

行動指針の理解のための規程を記載した冊子に加えて、身近に起こり得る事例を部門別に記載した行動指針ケースブックを従業員に配布しています。

集合教育や職場での読み合わせなどに活用しています。



## ■ コンプライアンス教育

行動指針の周知徹底、法令・各種規制の遵守のために各種研修・教育を法務部中心に実施しています。

### コンプライアンス教育

行動指針研修会(事例の解説などが中心)を行ったほか、新入社員研修においても、コンプライアンス教育を継続実施しました(計10回、約670名受講)。

### 取引関連法規の遵守教育

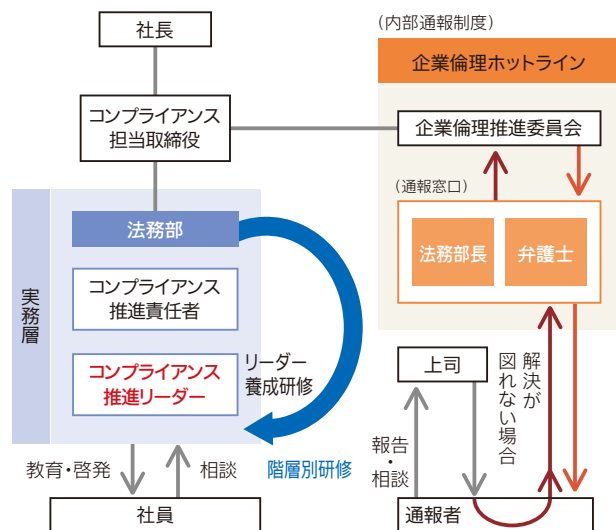
2016年度は、営業・販促部門に対して「優越的地位乱用」をテーマに、独占禁止法・下請法についての遵守教育を計3回開催し、約450名が受講しました。

また業務部門に下請法の遵守教育を実施し、116名が受講しました。

### 知的財産面の取り組み

2016年度は、デザイン制作を取り扱う企画部門に対する著作権研修に加え、グループ会社や委託先であるデザイン制作会社向けに知的財産セミナーを開催するなど、知的財産権の正しい知識の習得、意識の向上に幅広く努めました。また知的財産関連の各種団体(日本知的財産協会、日本印刷産業連合会)に委員を派遣し、団体運営への協力や業界としての提言活動を行うなど、業界の地位向上にも貢献しています。

## コンプライアンス体制図



## ■ 企業倫理ホットライン

内部通報制度「企業倫理ホットライン」は、法令違反や不正行為を早期発見し、適切に対応するため、通報窓口を定めて全従業員に周知しています。本制度は、通報者が不利な取り扱いを受けないことを規程で明確に定めています。

2016年度の通報件数は2件でした。

## ■ コンプライアンスの状況

2016年度に、刑罰、行政罰や行政指導を受けた社会的影響の大きい法規制違反はありません。

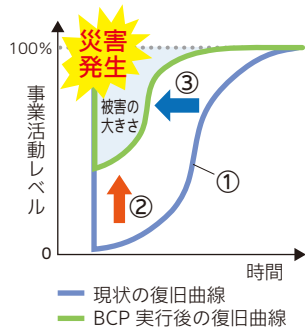
# 事業継続(Business Continuity)

災害時、人命の安全を第一に考え地域社会と協調し、可能な限り事業の継続を図ります。そのための態勢を整え、社会的要請に応えます。

## 事業継続計画(BCP)策定のステップ

BCPの策定には、以下のようなステップがあります。

- ① **リスクの把握**：継続すべき事業を特定し、災害時の被害の大きさと復旧予想を把握します。
- ② **被害を減らす**：災害時の被害を最小にとどめるための対策を検討・実施していきます。
- ③ **復旧を早める**：復旧に向けた事業継続計画(BCP)の作成、訓練を繰り返すことにより復旧時間の短縮を図ります。



## 事業継続への取り組み

近年、有事の際の危機管理が求められる中、災害や事故が発生した時でも、事業を可能な限り中断させず、中断した場合でも、できるだけ早急に復旧させることを目的とする事業継続マネジメントシステム(BCMS)構築が急務となっています。

当社は、お客さまのデータをお預かりし、データ処理からプリント処理、封入封緘<sup>ふうかん</sup>処理、発送処理に至るまでの一連の業務を担っています。このデータ・プリント・サービス(DPS)事業を重要な事業として位置づけており、2006年度から首都圏でのBCMSの構築に着手し、2008年度にはBCP推進プロジェクト、2009年度にはBCP実行プロジェクトを立ち上げ、首都直下型地震を想定したBCPを策定しました。さらに2010年度から順次対象範囲を拡大し、2013年度は物流部門、2015年度にはBPO(ビジネスプロセスアウトソーシング)部門におけるBCPを策定しました。

今後もBCPの見直しを図るとともに、訓練・演習を繰り返すことにより、PDCAを回してスパイラルアップを図り、市場の要求に対応していきます。

## JISQ22301 : 2013(ISO22301 : 2012)の認証取得

地震などの自然災害リスクに対する政府(内閣府や経済産業省など)からのBCP策定勧告、得意先からの要請など社会的にBCMSの構築に対する必要性が高まる中、当社は2013年12月に業界に先駆け、事業継続マネジメントシステムの規格であるJISQ22301(ISO22301)の認証を取得しました。

### 審査登録概要

|       |   |
|-------|---|
| 規格    | JISQ22301(ISO22301)   |
| 対象事業  | DPS・DOD・BPO事業   |
| 対象事業所 | トッパンフォームズ：<br>本社、IT統括本部(東京)、IT統括本部(関西)、日野センター、札幌事業所、中部事業所、関西事業所、西日本事業所<br>トッパンフォームズ・セントラルプロダクツ：<br>滝山工場、福生工場、川本工場、城東センター<br>トッパンフォームズ東海：名古屋工場<br>トッパンフォームズ・サービス：所沢物流センター<br>トッパンフォームズ関西：大阪桜井工場<br>トッパンフォームズ西日本：九州工場<br>山陽トッパンフォームズ：広島工場<br>北海道トッパンフォームズ：北海道工場 |
| 初回登録日 | 2013.1.16   |
| 認証番号  | JP13/080262   |

## 2016年度の主な活動

### ●MCA無線を使用した情報連携訓練

策定されたBCPをもとに実効性の検証や見直しを行うため、また実際の災害時にも迅速に行動できるよう大地震の発生を想定して、本社緊急対策本部と各事業所、工場間でMCA無線を使用して被災状況の報告など、情報連携訓練を実施しました。

### ●避難車操作説明会

本社ビルでは災害などでエレベーターが使用できないような時、階段での避難が困難な方やけが人を、座った状態で安全に避難させられる避難車を16台(1、2階を除く全フロア)設置しています。2016年度は、実際に使用してみることで、有事の際に備えられるように、操作説明会を実施しました。



# 情報セキュリティ

当社は、お客さまから個人情報を含めた大切な情報をお預かりし、最適な形でお届けしています。国内トップレベルの個人情報取り扱い企業としての責任を持ち、常に業界のトップとして情報セキュリティの向上に取り組んでいきます。

## ■ 情報セキュリティへの取り組み

2015年に全国民に個人番号が通知され、昨年はその利用が本格的に始まりました。個人番号を含む特定個人情報の取り扱いでは監督機関として個人情報保護委員会が新設され、不適切な取り扱いに対する罰則も強化されています。これを受け、個人情報の取り扱いに対する安全性のさらなる確保が課題になっています。

また情報セキュリティに対する脅威も増加しており、サイバー攻撃や標的型のメール攻撃、内部者による大量の個人情報の持ち出しなど、情報セキュリティ事故が数多く報道されています。

当社は得意先からの預託情報を取り扱う企業として、個人情報保護・情報セキュリティ管理活動にグループ全体で取り組んでおり、プライバシーマークなどの必要な認証を取得するとともに、より高いレベルでの情報セキュリティ体制の構築を目指しています。

独自に作成した「情報セキュリティガイドライン」は、各事業所・工場でセキュリティのレベルに差異が出ないよう具体的な施策をわかりやすい形でまとめたもので、当社グループのセキュリティ体制確立の指針となっています。世の中の変化に合わせて毎年見直しを行い、全社のレベルアップにつなげていきます。

### 情報セキュリティ基本方針

情報処理技術の進展は、社会にとって利益をもたらす反面、大きなリスクも伴っており、そのことは情報管理サービスを業とする当社グループにとって深く関わってまいります。情報を適切に管理することは、お客様の信頼を確固たるものとしていくと同時に、社会的責務でもあります。当社グループは、このことを深く認識し、下記に示す方針の基に全社を挙げて情報セキュリティに取り組んでまいります。

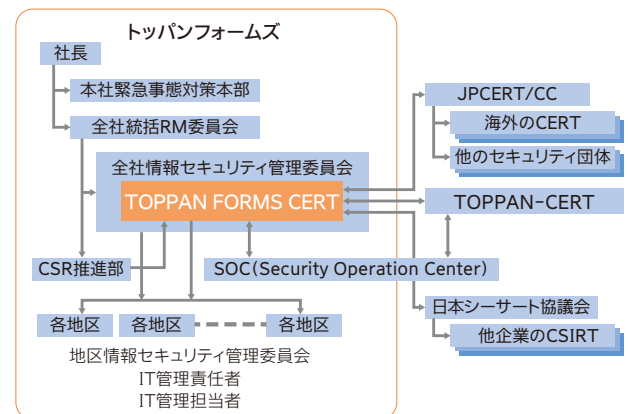
1. 情報の取り扱いに際しては、法令・規範や社会秩序を遵守し、社内各種規程類に則り適切に管理します。
2. 情報セキュリティ管理委員会を設置し、情報にかかわるマネジメントシステムの整備、改善および教育や啓発活動を推進します。
3. すべての情報資産についてリスクを分析・評価し、安全かつ適切に活用します。
4. お客様から預託された情報は、お客様の信頼に応えられるよう、安全かつ適切に管理します。
5. 社会情勢、制度改正や技術動向を的確に把握し、情報管理体制に反映させていきます。

## ■ サイバー攻撃対策への取り組み

サイバー攻撃はサーバーやパソコンなどのコンピューターシステムに対しネットワークを通じて不正に侵入し、データの詐取や破壊、改ざん、さらに機能不全に陥らせる攻撃などがあります。個人情報の取り扱いに対する機密性と完全性を脅かすだけではなく、データ・プリント・サービス (DPS) の安定した提供にも影響する恐れがあります。

当社はこのようなサイバー攻撃に対し、被害発生を前提とした対策チームである組織内CSIRT (Computer Security Incident Response Team) を設立し、コンピューター関連の緊急事態に専門的に対応する体制を構築しています。

### インシデントレスポンス体制



## ■ 多層的な防御を推進

サイバー攻撃は刻々と手口を変え、多様化しています。当社はサイバー攻撃に対し、技術的対策だけでなく、組織的対策、人的対策にも取り組み、多層的な対策を推進しています。

### 標的型攻撃対応訓練を毎月実施

サイバー攻撃が増え続ける中で、当社を標的としたメールによる攻撃も増加しています。攻撃メールはビジネスメールと見分けることが困難となっており、人的対策が重要となっています。当社は全従業員を対象とした不審メールに対応する訓練を実施しています。

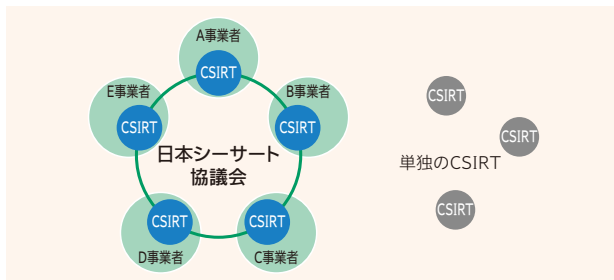
## “通報”を重視した訓練

各事業所、国内グループ会社、ならびに海外ファミリー会社の現地社員も対象に、毎月標的型攻撃対応訓練を実施し、さまざまな攻撃パターンに対応できるよう、訓練を継続しています。

サイバー攻撃に用いられるメールは、本物のビジネスメールと見分けることが困難になっているため、訓練では攻撃メールを見抜くことより、“通報”に重点を置き、通報率を評価項目として訓練の精度を高めています。

## 外部との連携強化

サイバー攻撃対策を自社だけでなく社会としての対策につなげるため、日本シーサート協議会\*1を軸として外部との交流、情報収集を行っています。



## 安全なインターネット利用への取り組み

当社はフィッシング対策協議会\*2に加盟し、サイバー犯罪として最も被害が大きいフィッシング詐欺への対策と安全なインターネット利用の啓発活動を進めています。

## 安全の合言葉「STOP.THINK.CONNECT.」を推進

歩行者が横断歩道を渡る際には、まず左右の安全確認です。インターネットを安心して利用するための習慣はこれと似ています。すべての人がインターネットを安心して利用できることを目指し、啓発を推進しています。

STOP(立ち止まって理解する)  
 THINK(何が起こるか考える)  
 CONNECT(安心してインターネットを楽しむ)  
<http://stopthinkconnect.jp/>

## PCIDSS(Payment Card Industry Data Security Standard)認証取得状況

| 認証の範囲                         | 登録日        |
|-------------------------------|------------|
| トップバン・フォームズ株式会社 デジタルメッセージング基盤 | 2015. 2.26 |

## コモンクライテリア(ISO/IEC 15408)認証取得状況

| 事業所             | 登録日        |
|-----------------|------------|
| TFペイメントサービス株式会社 | 2013. 8. 1 |

## ISO27001認証取得状況

| 事業所                         | 登録日        |
|-----------------------------|------------|
| トップバン・フォームズ株式会社 東京データセンター   | 2003. 2. 3 |
| トップバン・フォームズ株式会社 関西ビジネスセンター  | 2004. 1.30 |
| 株式会社トスコ                     | 2007.11.22 |
| 株式会社ジェイ エスキューブ:新大阪C・長崎C・仙台C | 2004. 9. 9 |

## プライバシーマーク認証取得状況

| 事業所                        | 登録日        |
|----------------------------|------------|
| トップバン・フォームズ株式会社            | 2008. 6.12 |
| トップバン・フォームズ・セントラルプロダクツ株式会社 | 2012. 5.10 |
| トップバン・フォームズ東海株式会社          | 2006.12.19 |
| トップバン・フォームズ・オペレーション株式会社    | 2002. 8.23 |
| テクノ・トップバン・フォームズ株式会社        | 2007. 3.23 |
| トップバン・フォームズ・サービス株式会社       | 2002. 8. 7 |
| トップバン・フォームズ関西株式会社          | 2002. 8. 7 |
| トップバン・フォームズ西日本株式会社         | 2005.12. 8 |
| 山陽トップバン・フォームズ株式会社          | 2006. 1.17 |
| 北海道トップバン・フォームズ株式会社         | 2006. 1.17 |
| 株式会社トスコ                    | 2006. 4. 6 |
| 株式会社ジェイ エスキューブ             | 2002. 2.25 |

(全て2017年3月現在)

## 2016年度の主な活動

### ●標的型攻撃対応訓練の実施

当社を標的としたメールによる攻撃を想定した訓練を、国内および海外の全従業員を対象に開始しました。標的型攻撃は巧妙化が進み、見抜くことが困難となっています。訓練では不審な添付ファイルを開いた場合の適切な初動実行を中心に、今後も継続して毎月実施していきます。

### ●4コマ漫画を活用した情報セキュリティ教育の実施

セキュリティに関する基本的な情報から新しい攻撃手法などを、わかりやすく4コマ漫画を活用して、セキュリティ教育を実施しています。2016年度は「ランサムウェアの被害が急増」「便利、しかし危険がいっぱい。スマートフォンの業務利用」などを取り上げました。

\*1：日本シーサート協議会：国内のCSIRT同士が互いに協調し、共通の問題を解決する場として設立した組織。2017年4月1日現在218チームが加盟している。(http://www.nca.gr.jp/)

\*2：フィッシング対策協議会：フィッシング詐欺に関する情報収集・提供、注意喚起等の活動を中心に対策を促進する団体で87の組織から構成。

# ステークホルダーとの かかわり



## トッパンフォームズの取り組み

当社グループは、「社会益」「会社益」「個人益」の三益を優劣を付けることなく一つのごとく扱い、どれか一つでも欠けてはならないという「三益一如」を経営信条とし、その実践を通じて、当社を取り巻く社会、環境、そして顧客をはじめとしたさまざまなステークホルダーと調和しながら持続的に成長することを目指しています。またすべてのステークホルダーに対する社会的責任を果たしていく基本的な認識のもと、ダイバーシティ&インテグレーション（多様性とその集積による成果最大化）を推進し、積極的な女性の活躍推進、健康経営など働きがいに満ちた企業風土づくりに取り組んでいます。

# 地域社会とともに

各事業所では、地域とのコミュニケーションを通して、地域社会の一員としての責任を果たしています。

## 全国拠点での地域貢献活動

**TFK大阪桜井工場**

- ・水無瀬神宮「離宮の水保存会」清掃活動に参加
- ・桂川流域クリーン大作戦
- ・小学生の工場見学受け入れ
- ・事業所周辺清掃活動
- ・島本町消防出初式に参加
- ・ワクワクしまと環境学校に出展



**TFCP川本工場**

- ・深谷地区防火安全協会に登録し、自衛消防隊の競技会に参加
- ・近隣企業と市を招いての納涼祭
- ・深谷市ゴミゼロ運動に参加



**TFCP滝山工場**

- ・八王子環境フェスティバルに出展
- ・東京グリーンシップ・アクションに参加
- ・事業所周辺清掃活動
- ・自衛消防訓練審査会に出場
- ・地元自治体イベントに協賛

**TF東日本事業部**

- ・事業所周辺清掃活動
- ・地元自治体イベントに参加

**トスコ**

- ・ミヤンマーでの採用活動拡大
- ・インターンシップ受け入れ
- ・赤い羽根共同募金
- ・エコキャップ運動に参加

**TFT名古屋工場**

- ・事業所周辺清掃活動
- ・地元企業20社の異業種交流会に参加

**TF中央研究所**

- ・大学生インターンシップ受け入れ
- ・エコキャップ運動に参加

**TF本社**

- ・港区クリーンキャンペーンに参加
- ・献血活動
- ・TABLE FOR TWO活動に参加
- ・東京グリーンシップ・アクションに参加



**TFN九州工場**

- ・インターンシップ受け入れ
- ・熊本地震被災者へ食糧備蓄品の提供
- ・エコキャップ運動に参加
- ・事業所周辺清掃活動

**TF中部事業部**

- ・世界寺子屋運動「書き損じはがきキャンペーン」に参加

**ジェイエスキューブ**

- ・献血活動
- ・使用済み切手を集めて途上国の女性を支援する活動に参加

**TFCP福生工場・CP製造部**

- ・福生環境フェスティバルに参加
- ・自衛消防訓練審査会に出場
- ・特別支援学校生徒の職業体験受け入れ
- ・TABLE FOR TWO活動に参加
- ・福生七夕まつりに出展・協賛
- ・防火防災活動に対し福生消防署から感謝状



**TFO**

- ・独身寮(5カ所)周辺清掃活動
- ・特別支援学校生徒の職業体験受け入れ
- ・こもれびの森整備支援活動
- ・独身寮地元自治会行事に参加



**TFK神戸工場**

- ・事業所周辺清掃活動
- ・地元自治体イベントに参加

**TFT静岡・メディア工場**

- ・事業所周辺清掃活動
- ・献血活動
- ・インターンシップ受け入れ
- ・TABLE FOR TWO活動に参加
- ・赤い羽根共同募金
- ・日本赤十字社寄付
- ・小学生の工場見学受け入れ



**OBF**

- ・事業所周辺街路樹の剪定
- ・献血活動
- ・地元自治体イベントに協賛
- ・赤い羽根共同募金
- ・日本赤十字社寄付

**TFT浜松工場**

- ・事業所周辺清掃活動
- ・献血活動
- ・インターンシップ受け入れ
- ・小学生の工場見学受け入れ
- ・知的障がい者の実習受け入れ(2016年12月に採用)
- ・赤い羽根共同募金/緑の募金
- ・日本赤十字社寄付

**TFS**

- ・障がい者就労支援センターの会社見学会受け入れ
- ・献血活動
- ・障がい者の実習受け入れ(その後1名採用)
- ・所沢市年末防犯キャンペーンに参加

**TTF**

- ・献血活動

## 地域とのコミュニケーション

### 東京グリーンシップ・アクション

当社グループは、2010年から「東京グリーンシップ・アクション」に参加し、TFCP滝山工場の近くにある八王子戸吹北緑地保全地域の自然環境保全活動を行っています。2016年11月の秋晴れの中、従業員とその家族約30名と、東京都環境局、東京都環境公社、地元NPOと大学生の方も参加し、今回で7回目の開催となりました。

緑地保全活動では、例年NPOの指導により下草刈りや間伐、観察路の整備を実施。毎年少しずつ整備をしていた観察路が、段々完成に近づいてきました。自然に親しむプログラムでは、緑地散策中に集めた栗のいがや木の枝を使った花炭づくりと、足踏み式の脱穀機を使った脱穀体験も行いました。

当社グループは森林資源である紙を多く使用しており、自ら森林を守る活動に参加することで、自然の大切さを学んでいます。

**東**京都では、都内に残された貴重な自然地を、「保全地域」として指定しています。八王子戸吹北緑地保全地域もその一つで、コナラ中心の樹林地の中に水辺があり、多くの希少動植物が見られます。

雑木林の良好な環境を守るためには、ただ放置すれば良いのではなく、適度な「手入れ」が必要です。東京グリーンシップ・アクションで行っている間伐などの作業は、林床の日照を良くし、さまざまな植物の生長に役立っています。

これからも企業の皆さまと協働し、この身近な自然にさらに親しみを感じていただくとともに、豊かな森づくりを行っていただければ幸いです。



東京都環境局 自然環境部 緑環境課  
岡 幸穂 さま

### ふくしま応援企業ネットワーク

当社は2015年5月から、原子力事故の影響による福島県の風評被害払拭へ貢献しようという志を持った企業33社（2017年1月時点）で構成された「ふくしま応援企業ネットワーク」に加盟しています。

加盟各企業は創意工夫して、福島県産品の積極的な購入や県内施設の利用促進を図りながら、情報交換と活動の輪を広げています。当社も汐留本社ビルにて福島県特産品販売会「企業マルシェ」の開催や、本組織の活動情報を発信するWebサイト制作に協力しています。

2017年3月には、都市部企業と農山村地域の新しい「交流」「連携」を創造し、双方の課題解決を目指す取り組み「福島県農都交流プログラム」（三春町体験モニター「三春に来てみっせ！」）に当社従業員が参加し、福島県産の食材をふんだんに使った郷土料理、座禅と写経体験、星空観察、農業体験など、2日間にわたりさまざまなプログラムを体験しました。

今後も福島県に関わるさまざまな活動に参画し、「風評」払拭だけでなく震災からの時間経過とともに福島への関心や応援する気持ちが薄れていく「風化」の防止を目的に地道に活動を続けていきます。



「福島県農都交流プログラム」



「東京グリーンシップ・アクション」



## 汐留本社オープンスペースでのイベント開催

### ①ペーパーレストラン2016を開催

2016年10月30日から11月6日にかけて、3回目となる「ペーパーレストラン2016～紙の力・紙を使いこなしたアートの世界展」を汐留本社1階オープンスペースにて開催しました。

このイベントはペーパーアートの作品展示を通じて紙の文化や、紙が持つ五感に響くコミュニケーションの力を広く訴求し、ペーパーアートの発展に寄与することを目的に、トッパンフォームズのほか製紙会社など14社が協賛・協力しました(主催:日本ペーパークラフト協会、株式会社オフ・クリエイトクリ8)。

今回は21人(組)のアーティストが出品。「KAMI神になった動物たち」をテーマにそれぞれのアーティストが独特の世界観、手法で作品を制作、展示しました。また東京都立大崎高校のペーパージオラマ部も特別出展し、同じテーマにチャレンジしました。

期間中は1,800名近い方々が来場し、ワークショップやセミナー、切り絵ライブに参加。多くの方に紙の持つ表現力を体感していただきました。



ペーパーレストラン2016作品展(写真上)、ワークショップ(写真下)

### ②ペーパージオラマグランプリ2017に協賛

中学生、高校生が中心となって制作したペーパージオラマの展示を行う、第1回「ペーパージオラマグランプリ2017」に協力しました。

ペーパージオラマグランプリは2017年3月に行われた「コンクール」とその作品を展示する「作品展」で構成されており、コンクールは品川区の八潮児童センターで行われた「やしお電車まつり2017」内で開催、その作品を当社に場所を移し展示したものが作品展です。

作品展は3月21日から25日まで当社1階のオープンスペースで開催し、5日間という短い期間でしたが1,000人以上の来場者を迎えることができました。

このイベントでは、中高生が協賛企業や一般の見学者とも広く関わり、社会について勉強する機会ともなりました。トッパンフォームズでは、ペーパーレストラン同様に、改めて認識されている紙の持つコミュニケーション力を訴求するイベントとして応援しています。



ペーパージオラマグランプリ2017作品展

## 港区 芝地区クリーンキャンペーン

本社所在地の港区の芝地区生活安全・環境美化活動推進協議会主催で開催される自治体、地元町内会、企業が参加する清掃活動「芝地区クリーンキャンペーン～路上喫煙ゼロのまち！～」に、2013年から参加しています。2016年度は5回参加し、3月参加時には継続しての参加に対し、感謝状と記念品をいただきました。

東京が世界で一番きれいな都市と言われ続けるように、また地域の方々との貴重な交流の場として、今後も継続して活動に参加していきます。



感謝状

# お客さまのために

お客さまによりよい製品・サービスを提供するため、あらゆる角度から取り組みを実施しています。

## ■ 品質の保証・向上

当社グループは、お客さまに満足いただける品質の製品・サービスを継続的に提供するために、品質第一の考えのもと継続的品質改善活動が重要と考え、不具合の再発防止とデザインレビューや4M\*変更管理の徹底による未然防止活動により、開発設計、製造のあらゆる生産工程において品質向上に努めた活動を展開しています。

さらに全国の生産事業所の品質保証部門が参加する全社品質会議を開催し、品質事故の防止に向けて品質情報の共有化や品質改善策の水平展開を図っています。

また生産事業所を中心にISO 9001の認証を取得し、品質マネジメントシステムの継続的な改善を積極的に推進し、品質の向上を図っています。品質マネジメントシステムが正常に機能しているかを、年1回の品質内部監査によって常に監視しており、恒常的な品質保証体制の確立とさらなる向上を推進しています。

### ISO9001認証取得状況

| 事業所名                      | 登録番号         |
|---------------------------|--------------|
| トッパン・フォームズ・セントラルプロダクツ株式会社 | JQA-QM6984   |
| テクノ・トッパン・フォームズ株式会社        | JQA-QM7957   |
| トッパン・フォームズ西日本株式会社         | JQA-QMA11040 |
| トッパン・フォームズ東海株式会社          | JQA-QMA12322 |
| トッパン・フォームズ関西株式会社          | JQA-QMA12522 |
| トッパン・フォームズ・サービス株式会社       | JQA-QMA12728 |
| 北海道トッパン・フォームズ株式会社         | JQA-QMA12871 |
| 山陽トッパン・フォームズ株式会社          | JQA-QMA12968 |
| トッパン・フォームズ株式会社 BPO本部      | JQA-QMA13584 |
| トッパン・フォームズ株式会社 CMC        | JQA-QMA13708 |
| 株式会社ジェイ エスクープ             | FS 593139    |

(2017年3月現在)

## ■ 製品の安全性を徹底追求

当社の製品・商品をお客さまに安心してお使いいただくために企画・設計段階からデザインレビューを実施し、安全性の追求に努めています。資材の購入に関しては、原材料含有化学物質管理基準およびグリーン調達基準を定め、安全と環境に配慮した原材料の調達を行い、安全でより環境に優しいものづくりに取り組んでいます。

例えば農産物用フィルムの印刷物を製造していますが、フィルム材料は「食品、添加物等の規格基準」を満たしているものを確認して使用しています。また使用するインキにつきましても「食品包装材料用印刷インキに関する自主規制(NL規制)」に適合したインキを使用して製造しています。

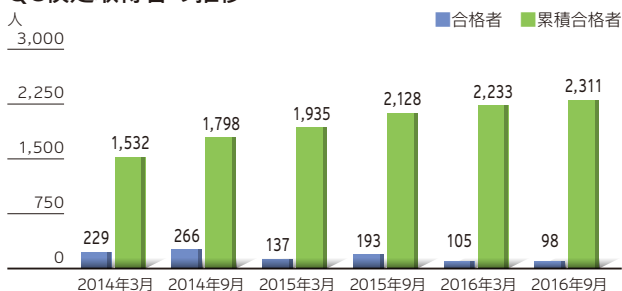
またお客さまから調査依頼があった場合には、生産工場の管理システム・製品に対する化学物質の含有調査などに個別に対応しています。

## ■ 品質管理検定(QC検定)の取得推進

品質第一の「ものづくり」を行うために、品質重視の考えを風土として浸透させることが必要であると考えています。そこで品質管理検定(QC検定)の客観的な評価と、より高いレベルへ継続的に挑戦できる点に着目し、QC検定取得を推進しています。これは品質第一に徹する人づくりこそが、目標達成の近道であると考えからです。製造部門の品質管理の責任者を対象として2012年3月に導入しました。1級、2級合格者にはオリジナルバッジによる表彰を行いながら、対象者を営業、開発、スタッフなどの間接部門へも広げ、現在累計で2,311名が資格を取得しています。

今後もさらに対象を広げ、より一層全社グループ統一の品質管理レベルの維持と向上を図っていきます。

### QC検定取得者の推移



オリジナルバッジで表彰

\* : 4M : Man(人)、Machine(機械)、Material(材料)、Method(方法)

## ■お客さまのニーズに応えた製品・サービス

### 厳格な真贋判定や確認記録作成が1台で可能 本人確認書類真贋判定機「PASiD scan」

「PASiD scan/パシッド スキャン」は、金融機関の口座開設などの契約時において、各種証明カードのスキニングや真贋判定を1台で行うことができるシステムです。これまで契約の窓口で運転免許証などの真贋を目視で確認し、さらに手書きで本人確認記録票を作成しており、窓口業務の負担となっていました。本システムは各種証明カードの真贋を簡単に判定でき、本人確認記録票を自動で作成することが可能で、窓口業務を大幅に効率化することができます。

運転免許証のほか、個人番号カード、住民基本台帳カード、在留カード、特別永住者証明書、通知カードなど多様なカードに対応しています。

金融機関、自治体を中心に280台以上の導入実績（2017年3月末現在）があります。またレンタカー会社、不動産事業者など多くの業種で本人確認が厳格化されており、導入の検討がますます進んでいます。

#### お客さまの声

##### Q. 窓口での本人確認業務の課題は何でしたか。

A. 顧客から本人確認書類を預かる→コピー→機微情報を消す→再度コピーという業務の過程で顔写真が不鮮明になりがちでした。さらに本人確認書類をコピーのためにバックヤードまで持っていくことに不安を感じる顧客が多いことと、取得しなければならない顧客情報が多岐にわたっていたため、改善の必要性がありました。

##### Q. パシッド スキャン導入の決め手は何でしたか。

A. 本システムにより窓口の本人確認業務の煩雑性を解消できることです。また将来的にペーパーレスを目指しており、それを見据えて購入を決めました。

##### Q. 導入後、窓口での本人確認業務は変わりましたか。

A. 運転免許証などを差し込むだけで両面コピーされ、窓口の事務処理の手間が省けるようになりました。今後は本機の活用の可能性をさらに検討していきたいです。

あぶくま信用金庫 業務推進部  
高橋 貞夫 さま

### PASiD scan

#### 本人確認業務を効率よくスムーズに行えます。

運転免許証などを両面スキャンし、瞬時に本人確認ができます。OCR読み取りした券面情報を活用して、本人確認記録票も即座に作成可能です。



カード挿入

本人確認

帳票作成

# 株主・投資家とともに

適正・公平かつタイムリーな情報開示をベースに、持続的な成長と企業価値の向上、適切な利益配分により、株主・投資家の皆さまと長期的に安定した関係の構築を目指しています。

## ■ 経営活動の透明な情報開示

当社は持続的な成長と企業価値の向上を図るとともに、適切な利益配分を行うことで、株主・投資家の皆さまと長期的に安定した関係を構築しています。

適正・公平かつタイムリーな情報開示を目指し、コミュニケーションツールの充実を図っており、投資家をメインターゲットとした統合報告書を発行しているほか、ウェブサイトでは、当社の事業概要や財務情報をわかりやすくご覧いただけるように配慮しています。IR情報ページには、業績ハイライトや株主通信、統合報告書などを掲載しています。

また機関投資家を対象とした決算説明会や施設見学会の実施、個人投資家向けのIR展示会への出展など、株主・投資家とのコミュニケーションの充実に努めています。



個人投資家向けIR展示会 出展の様子

## IRに関する基本方針

### 1 情報開示の基準

当社は、東京証券取引所の定める適時開示規則を遵守したディスクロージャーを行っています。また、適時開示規則に該当しない情報についても、株主や投資家の皆さまに弊社をご理解いただくために、有効な情報につきましては、可能な限り積極的かつ公平にホームページにて開示する方針です。

### 2 情報開示の方法

適時開示規則に該当する情報の開示は、同規則に従い、東京証券取引所の提供するTDnetにて公開しています。TDnetにて公開した情報のホームページへの掲載は可能な限り迅速に行います。

なお、ホームページには当社が開示している情報のすべてが掲載されていない場合があります。また、他の方法で開示された情報とは異なった表現をしている場合もあります。

## ■ 配当政策

当社は企業価値の持続的な向上を目指し、事業展開や事業拡大に必要な研究開発、合理化に向けた設備投資および新規事業開拓のための成長戦略投資に重点的に利益を配分していくことを基本方針としています。

株主に対する利益還元策としては、連結配当性向を重

要な指標の一つとし、継続的かつ安定的な配当を基本としています。

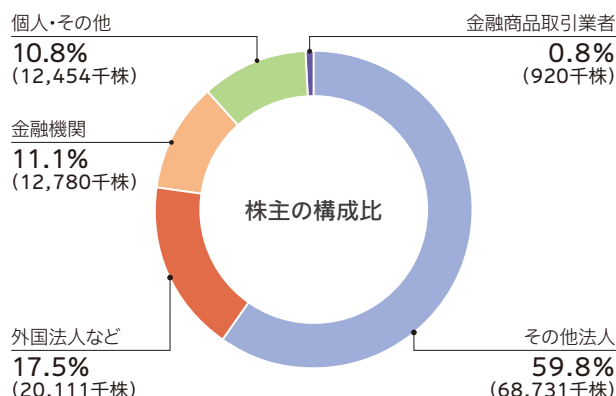
配当は中間配当と期末配当の年2回を基本としており、これらの剰余金の配当の決定機関は、中間配当については取締役会、期末配当については株主総会としています。

2016年度の配当金は、1株当たり25円(中間：12円50銭)となりました。

## ■ 株主総会の開催

2016年6月に開催した第62回定時株主総会には、99名の株主にご出席いただきました。当日ご出席願えない株主の皆さまには、書面またはインターネットによる議決権を行使いただける環境をご用意しています。

株主総会招集ご通知ならびに決議ご通知は、和・英ともに当社ウェブサイトに掲載しています。



## 大株主の状況(上位10社)\*1、2

| 株主名   | 当社への出資状況 |         |
|---|----------|---------|
|   | 株式数(千株)  | 持株比率(%) |
| 凸版印刷株式会社  | 67,419   | 60.7    |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社  | 4,879    | 4.4     |
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社  | 3,494    | 3.1     |
| トッパンフォームズグループ従業員持株会   | 2,086    | 1.9     |
| BNP PARIBAS SECURITIES SERVICES LUXEMBOURG/JASDEC/HENDERSON HHF SICAV             | 1,901    | 1.7     |
| CBNY-GOVERNMENT OF NORWAY   | 1,521    | 1.4     |
| 資産管理サービス信託銀行株式会社  | 1,325    | 1.2     |
| STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505001  | 1,191    | 1.1     |
| CHASE MANHATTAN BANK GTS CLIENTS ACCOUNT ESCROW                                   | 1,118    | 1.0     |
| NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE IEDU UCITS CLIENTS NON LENDING 15 PCT TREATY ACCOUNT | 1,027    | 0.9     |

\*1：当社は自己株式4,003千株を保有していますが、上記の表から除外しています。  
\*2：持株比率は自己株式を控除して計算しています。

# 取引先とともに

取引先とともに、サプライチェーン全体を通して、CSRへの取り組みを積極的に推進し、互いの企業価値向上を目指しています。

## CSR調達の推進

当社グループでは、「トッパンフォームズグループCSR調達ガイドライン」の中で「CSR調達基準」を定め、取引先（原材料・設備・商品調達先および生産・加工委託先）と協働して、CSR調達に取り組んでいます。

「CSR調達基準」は取引先にその遵守を要請する項目であるとともに、当社グループが遵守すべき基準でもあります。取引先との連携により、CSRへの取り組みをサプライチェーン全体で推進し、互いの企業価値向上を目指しています。取引先にはCSR調達の趣旨をご理解いただき、この基準を尊重していただくことを取引の基本と考えています。

## CSR調達ガイドライン

当社グループでは2009年3月に「トッパンフォームズグループCSR調達ガイドライン」を制定し、取引先に遵守を要請し周知を図りました。その後見直しを行い、

2014年7月に第3版として改定を行いました。第3版の改定では、国連から企業への要請である「国連グローバル・コンパクト」や組織の社会的責任に関する国際規格ISO 26000を参考に、既存のガイドラインに概念として含まれていた4項目（人権、労働、環境、腐敗防止）について、基本的調達基準とは別に「人権・労働・環境・腐敗防止に関する調達基準」として細目までを明記しました。

その上で当社グループのCSR調達の推進にご協力いただける取引先からは「協力同意書」を提出していただいています。

## サプライヤーホットラインの開設

不正・不祥事の発生を未然に防止するため、取引先から直接通報を受ける窓口を設け、調査・対応などを行う「サプライヤーホットライン」を開設しました。公平性・透明性を高め、コンプライアンス体制を強化する仕組みを整備し、社会からより一層信頼される会社を目指します。

### CSR調達基準

#### 1 基本的調達基準

- 1) 品質の維持・向上
- 2) 適正な価格
- 3) 安定供給
- 4) 製品の安全
- 5) 情報の管理
- 6) 法令や社会規範の遵守
- 7) 公正な事業活動
- 8) 知的財産権の保護・尊重
- 9) 通報者の保護
- 10) 情報の開示

#### 2) 労働

- ① 強制労働の禁止
- ② 児童労働の禁止
- ③ 差別の禁止
- ④ ハラスメント行為の禁止
- ⑤ 労働者が保有する権利の尊重
- ⑥ 労働安全衛生の確保
- ⑦ 適切な賃金の支払い
- ⑧ 適切な労働時間管理
- ⑨ 雇用の安定への配慮と、雇用主の義務の遵守

#### 2 人権・労働・環境・腐敗防止に関する調達基準

- 1) 人権  
企業活動と関連するすべての人の人権を尊重する。また、自らの活動が直接的・間接的に人権を侵害することがないようにする。

#### 3) 環境

現地の環境関連法令を遵守するとともに、大気、水質、土壌の汚染防止に努める。また、資源の使用と排出の継続的な測定・評価を行い、環境負荷の改善に努める。

#### 4) 腐敗防止

贈収賄、汚職、不適切な利益の供与・受領、強要、横領などを禁止し、これらの行為を防止する。

# 従業員とともに

「三益一如」の経営信条のもと、お客さまの課題解決に役立ち、社会の一員としての責任を果たすために、「魅力ある人材の育成」に取り組んでいます。

## ■ ダイバーシティ&インテグレーション

### 多様な人材の活躍

当社グループは、ダイバーシティ&インテグレーションを重要な経営戦略の一つとして推進しています。人材の多様性を活かすことが組織の活力や創造性を高めると考え、多様な人材がともに働き、互いにその価値観を尊重し合える職場形成を目指しています。一人ひとりが持てる個性と能力を十分に発揮できるように、さまざまな取り組みを進めています。

### 女性社員の活躍推進と登用

女性社員が自分の強み・特性を活かしながら活躍できる企業風土の醸成と新たな付加価値の創造を目的として、女性社員の積極的な活躍を推進しています。

2011年度より女性社員の主任クラスを対象とした「女性管理職層育成研修」を実施し、管理職への積極的登用を推進しています。同時に受講生の上司に対する研修も行い、会社全体で育成する風土づくりを進めています。

#### 女性社員数推移

(TF単体/年度末)

|       | 2014年 | 2015年 | 2016年 |
|-------|-------|-------|-------|
| 全社員数  | 1,854 | 1,879 | 1,897 |
| 女性社員数 | 362   | 375   | 388   |
| 構成比   | 19.5% | 19.9% | 20.5% |

#### 女性管理職層構成比

(TF単体/年度末)

|          | 2014年 | 2015年 | 2016年 |
|----------|-------|-------|-------|
| 女性管理職層人数 | 29    | 30    | 35    |
| 構成比      | 4.6%  | 4.7%  | 5.2%  |

### 各種研修

社員とその上司が直面する状況に合わせ、さまざまな研修を実施しています。

- 女性管理職層育成研修(基本研修・管理職候補者研修)
- 女性管理職フォローアップ研修
- 女性管理職層育成研修受講者の所属長向け研修
- 女性営業キャリア開発研修
- 育児休業復帰前研修
- 育児休業復帰者フォローアップ研修
- 育児休業取得者・時短勤務者を部下に持つ管理職のための研修

### ● 「汐留なでしこの会」開催

汐留地区における企業同士の情報交換などを通じた女性活躍推進の会として「汐留なでしこの会」を立ち上げました。各回テーマを決め、女性管理職やワーキングマザー、ダイバーシティ推進担当者が集まり、2カ月に1回のペースで情報交換の場を設けています。

2016年5月には、汐留地区の企業で働く管理職候補者の女性社員約50名が「管理職になりたい? なりたくない?」をテーマとする合同イベントを当社にて開催し、管理職になるに当たっての課題や解決策などを話し合いました。

ランチタイムを利用して異なる業種の企業の方々と気軽に情報交換ができるのは、「汐留なでしこの会」ならではの良さです。今後もさまざまなテーマで集い、汐留地区からダイバーシティ推進のムーブメントを起こしていきたいと思います。

富士通株式会社 ダイバーシティ推進室長  
塩野 典子 さま

社内では向かい風の中で孤立しがちな「女性活躍推進担当者」ですが、同じ志の仲間が同じ地区で働いていると感じられることはとても心強いものです。今後もこの会の活動を通して、汐留地区の女性活躍の気運を盛り上げていきたいと思います。

三井化学株式会社 人事部ダイバーシティ推進室長  
安井 直子 さま



「汐留なでしこの会」発起人  
左から塩野さま、当社総務本部長 寺上、安井さま

## 中高年齢層の活性化

「定年後再雇用制度」において、2013年度より高年齢社員のモチベーションの維持・向上および豊かな経験と能力の有効活用を目的として、定年後の再雇用形態を複線型の「シニア社員」「キャリア社員」に再構成しました。今後もグループ全体での対応により、活躍の場の提供に努めていきます。また早い時期から60歳以降の働き方や生活設計を考えてもらう機会として、ライフプランセミナーを開催し、40代後半に1回、60歳直前にもう1回ライフプランの見直しができるようにしています。

### 定年退職者と再雇用者数

(TF単体/年度)

|         | 2013年 | 2014年 | 2015年 | 2016年 |
|---------|-------|-------|-------|-------|
| 定年退職者数  | 23    | 18    | 17    | 21    |
| うち再雇用者数 | 21    | 17    | 14    | 21    |

## 障がい者雇用の推進

障がい者が自身のワーク・ライフ・バランスを実現し、当社従業員としての責任を果たしながら長期的に就労を継続できることを目指しています。そのために医師と精神保健福祉士・企業在籍型ジョブコーチなどの専門的な

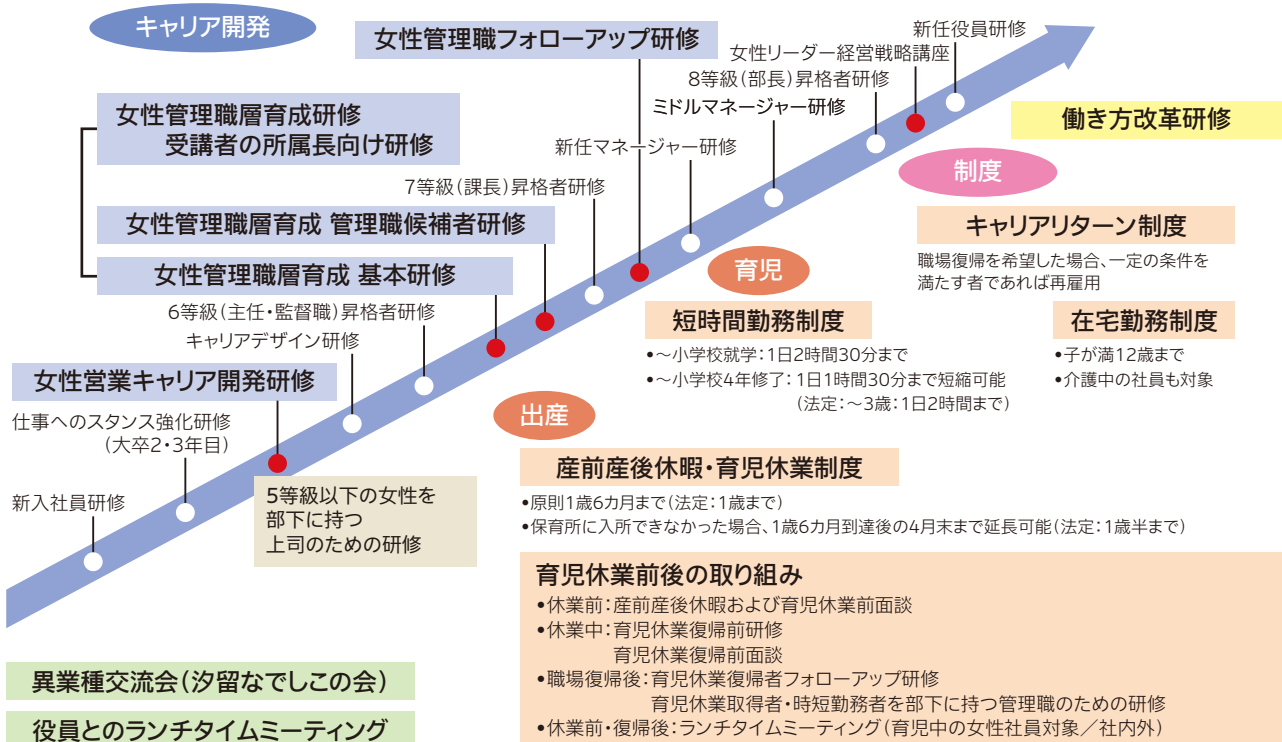
資格を持つ社員によるサポート体制や入社後面談を充実させるとともに、オフィスのバリアフリー化推進などにより、一人ひとりが活躍するための職場環境を整えています。2016年3月には日野センターで「精神障害等雇用優良企業認証」を取得しました。精神障がい者などを中心とした障がい者雇用への積極的な取り組みが評価されました。

2016年度はハローワーク、障害者就労支援センター、特別支援学校から7名を新たに採用し、2017年3月現在の障がい者雇用率は2.58%(TF単体)と、昨年よりも0.09ポイント上昇しました。

## グローバル人材の育成

海外の言語と文化を理解し、現地ステークホルダーと事業を推進できる人材や、国内でもダイバーシティ環境を理解しグローバルスタンダードで業務を推進できる人材の育成を目指し研修を実施しています。語学や異文化理解に加え、ダイバーシティマネジメント、国際時事セミナーなどさまざまな角度からのアプローチを行い、急速に多様化する環境下でビジネスを成長させる意欲を持ち、即戦力となる人材の育成を計画的・継続的に行っています。

## 女性活躍推進施策



## 自己成長・自己実現の支援

### 人事施策の基本的な考え方

人事諸施策の基本的な考え方は、「働きがいのある職場風土の醸成」「個人の能力が最大限発揮される環境づくり」「自ら学び続ける姿勢を持ち、挑戦を促す体制の構築」をベースとし、「三益一如」の経営信条のもと従業員一人ひとりがリスクを恐れず、新たな課題に果敢に挑戦する意欲的な集団を形成することで、企業体質のさらなる強化を図ることを目的としています。

## 制度

### キャリアリターン制度

2007年4月から、出産、育児、介護だけでなく、就学や転職などのキャリアアップ、結婚、配偶者の転勤などのために自己都合退職した者が、当社で再度チャレンジすることができる再雇用制度を導入しています。活躍の場を設けることにより、少子高齢化社会に対する社会的責任を果たすとともに、意欲のある人材を確保することによって組織の多様性と活性化を図っています。

**長** 女を出産した1992年に退職しましたが、次女が小学6年生になった2006年、営業所に欠員が出たということで声をかけていただきました。営業所で週4日のパート勤務を経て、2014年4月、次女が大学生になったのを機に、キャリアリターン制度を利用し、正社員として再就職を果たしました。

営業に関連する仕事が好きなので、この制度があって非常にありがたかったです。自分の経験を活かして、ママさん営業の相談にも乗っていただけらと思っています。



営業統括本部管理本部  
営業支援部東京エリア第二グループ  
都丸 裕子

### 2017年度新卒採用者数

(TF単体)

|            | 男性 | 女性 | 合計 |
|------------|----|----|----|
| 大学院・大学・高専卒 | 45 | 22 | 67 |
| 高校卒        | 0  | 12 | 12 |
| 合計         | 45 | 34 | 79 |

### 2016年度経験者採用者数

(TF単体)

|      | 男性   | 女性   | 合計    |
|------|------|------|-------|
| 採用者数 | 9(0) | 4(0) | 13(0) |

( )内はキャリアリターン

### ワーク・ライフ・バランス関連制度

- 産前産後休暇および育児休業前面談、育児休業復帰前面談
- 短時間勤務制度
- 産前産後休暇、育児休業
- 子の看護休暇
- 介護休暇、介護休業
- 在宅勤務制度

**最**初の出産が難産だったこと、また長男が幼稚園に入ったばかりの時期だったので、今回の出産をサポートするために思い切って約3週間の育児休業を取得しました。業務に関しては早い段階で職場メンバーと情報共有し、引き継ぎに協力してもらいました。

休業中はじっとしている時間がないほど幼稚園の送迎や家事に追われる毎日でしたが、大きなトラブルもなく大変な時を家族全員で乗り切ることができました。一番サポートが必要な時期に夫婦ともに子育てに集中できたので、妻からは「育児休業を取得してもらってとても助かった」と言われました。



職場の協力もあって子どもと過ごすことができたので、今まで以上に仕事を頑張ろうと思います。

IT開発本部DH第二開発部  
第一グループ  
高見 晋治



## ■ なでしこ銘柄 4年連続選定

当社は、2017年3月23日に女性活躍推進に優れた企業として、経済産業省と東京証券取引所が共同で実施している「なでしこ銘柄」に選定されました。同銘柄への当社の選定は、4年連続となります。



## ■ 健康経営の推進

多様な人材が生き生きと働き続けられる基盤づくりとして、働き方改革、健康保持・増進活動を推進しています。健康経営方針として、「生活習慣病対策」「メンタルヘルス対策」「禁煙対策」「家族の健康推進」を掲げ、会社・健保組合・労働組合が一体となって取り組んでいます。

### 健康経営セミナー

健康経営推進の第一人者である岡田邦夫氏(特定非営利活動法人 健康経営研究会理事長)を講師にお迎えし、「働くことと健康」をテーマにセミナーを開催しました。管理職を中心に参加し、「健康」と企業の組織活性化の関連性や職場の健康増進のために行うべきことなどを学びました。

#### 東京都福祉保健局主催

#### 「受動喫煙防止対策研修会」で講演

東京都福祉保健局が受動喫煙防止対策の必要性と推進方法について普及・啓発するため、企業や健保組合の担当者を対象に、当社事業所内の禁煙化や禁煙啓発イベント開催などの経緯と具体的な取り組み内容について事例発表を行いました。参加者の方からは、会社と健保の協力体制や肺年齢チェックイベントなどユニークな事例が参考になったと感想をいただきました。



総務本部総務部  
山岡 陽子

## ■ 健康経営銘柄 2年連続選定 健康経営優良法人(ホワイト500)認定

従業員などの健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に取り組んでいる企業として2017年2月21日に経済産業省と東京証券取引所から「健康経営銘柄2017」に選定されました。同銘柄への選定は昨年に続いて2度目となります。

また経済産業省と日本健康会議が新たに始めた「健康経営優良法人(ホワイト500)」の認定も受けています。



## ■ 安全・安心な職場

### 基本的人権の尊重

当社グループの「行動指針」の基本原則に、「基本的人権の尊重」を掲げ、具体的な行動指針として「1. 個人の多様な価値観を認め、人格と個性を尊重する」、「2. いかなる差別行為も行わない(すべての人の人権を尊重し、性別や年齢、国籍、人種、民族、信条、宗教、社会的身分、障がいの有無などによる差別や個人の尊厳を傷つける行為を行わない)」、「セクシュアルハラスメントやパワーハラスメントを行わない」ことを明記しています。

職場におけるハラスメント防止策としては、制裁条項を就業規則に明記したほか、社内にハラスメント相談窓口や苦情処理機関を設置して問題の早期解決、防止に努めています。

### 安全衛生への取り組み

グループ全体で審議推進する場として、グループ会社も含む総務部門長による「中央安全衛生防火委員会」を組織しています。労働災害の原因となりうる箇所の洗い出しを行い、適切な安全対策の実施と事業所への水平展開を行うことで事故の未然防止に努めています。また、労働災害時にはグループ全体で事故の状況や発生原因についての情報共有を行い、共通の事故対策を実施することで再発防止を図っています。

労働災害ゼロを目指した安全で快適な職場づくりを推進するとともに、全国火災予防運動、全国安全週間などに合わせて、自衛消防訓練や救命講習会、災害を想定した徒歩帰宅訓練といったさまざまな取り組みも進めています。

# 地球環境との かかわり



## トッパンフォームズの取り組み

トッパンフォームズでは、環境保全活動を企業の責任の一つと捉え、独自の環境マネジメントシステムを構築し、継続的な改善を行っています。そして地球環境の保全への取り組みとして、環境マネジメントシステム(EMS)を推進し、事業活動における環境負荷の低減を図るとともに、環境配慮型製品の開発・提供を通して環境保全に貢献しています。また温室効果ガス排出量の新しい算定基準(スコープ3)を採用し、自社の企業活動だけでなく、サプライチェーン全体での温室効果ガス排出量削減に取り組んでいます。

# 環境マネジメント

地球環境の保全が全人類の重要課題であることを認識し、環境マネジメントシステム(EMS)を推進して事業活動における環境負荷の低減を図るとともに、環境配慮型製品の開発・提供を通して環境保全活動を推進しています。

## 環境に関する基本理念・方針

当社は経営信条「三益一如」のもとで企業活動を行っています。地球環境保全についてもこの信条に基づいた「環境に関する基本理念・方針」を制定し、さまざまな活動に取り組んでいます。

### 基本理念

トッパンフォームズは、地球環境の保全が、人類共通の重要課題である事を認識し、企業としての社会的責任を果たすために、適切な施策を全社的に、継続的に展開してまいります。

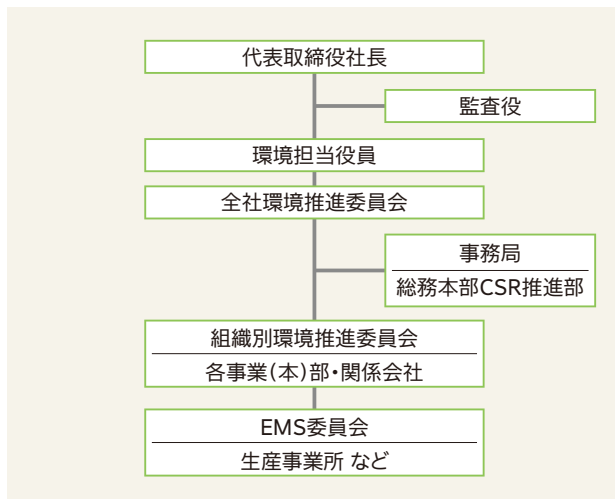
### 方針

1. 環境の確保と社員の意識高揚
2. 省資源・省エネルギー・リサイクルの推進
3. 法規制の遵守
4. 廃棄物の削減・環境汚染の防止
5. エコ商品の開発・販売
6. 生物多様性への対応

## マネジメントシステムと体制

当社グループの環境保全活動を継続的に推進するために、「全社環境推進委員会」、「組織別環境推進委員会」および「EMS委員会」を設置しています。これらの環境組織は、代表取締役社長および環境担当役員が管轄し、事務局が運営を行っています。

### 環境マネジメント体制図



## ISO14001認証取得状況

| 事業所名                      | 登録番号       |
|---------------------------|------------|
| トッパン・フォームズ株式会社中央研究所       | JQA-EM3911 |
| トッパン・フォームズ東海株式会社          | JQA-EM4171 |
| トッパン・フォームズ西日本株式会社         | JQA-EM4512 |
| トッパン・フォームズ関西株式会社          | JQA-EM5802 |
| 山陽トッパン・フォームズ株式会社          | JQA-EM6415 |
| トッパン・フォームズ・セントラルプロダクツ株式会社 | JQA-EM6727 |

(2017年3月現在)

## 環境監査

当社はグループ全ての生産事業所に対し、社内環境監査を年1回実施しています。監査は総務本部CSR推進部が主管となり、対象事業所の環境関連法規制の遵守状況を中心に、環境目標の達成状況などを確認・評価します。

監査終了後にはフォローアップとして全対象事業所との監査報告会を実施し、各事業所の監査指摘事項と関連法令について説明するとともに、指摘事項に対する具体的な対策を示し、監査指摘情報の共有を図っています。



環境監査の実施状況

## 環境教育

生産事業所の環境担当事務局に対し、環境情報連絡会を四半期に1回実施しています。この中では環境に関する基礎知識の習得を目的として、環境関連法令の勉強会と法改正に対する具体的な対応方法などの情報発信を行っています。

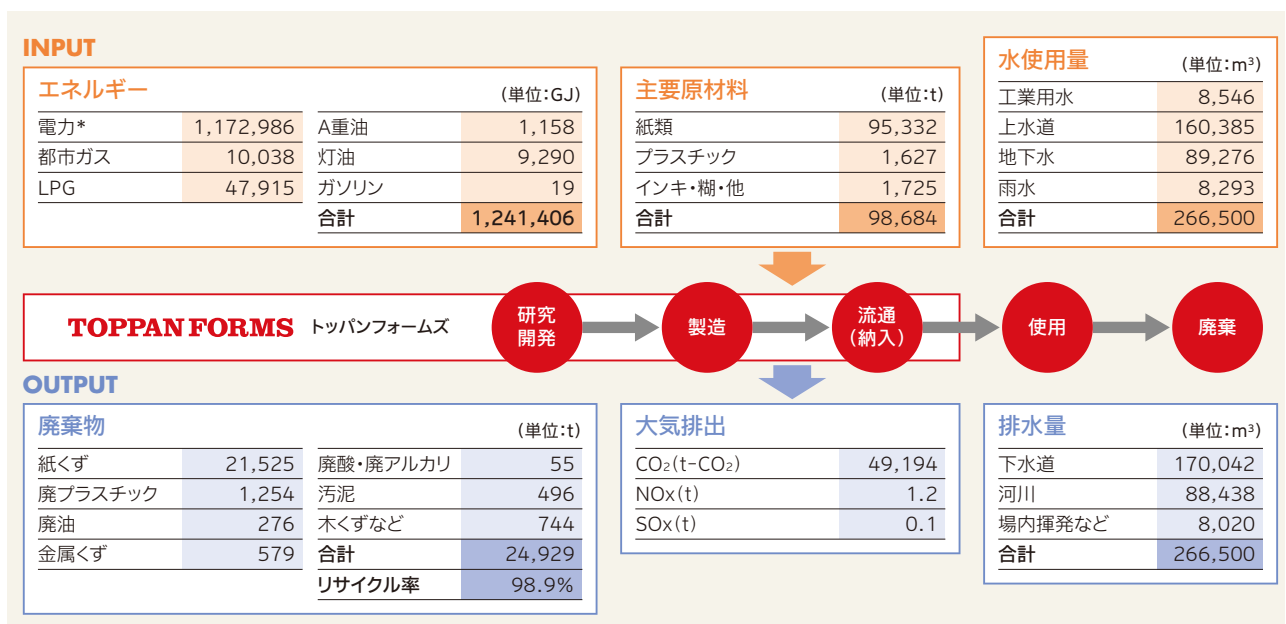
また全従業員に対し毎月1回「環境かわらばん」を発行し、さまざまな環境情報を発信して従業員の環境意識の向上を図っています。

## 2016年度の環境目標・実績と2017年度環境目標

| 2016年度環境目標                                     | 2016年度実績                                     | 評価 | 2017年度環境目標                            |
|--|--|----|---------------------------------------|
| <b>1.地球温暖化防止への取り組み(CO<sub>2</sub>排出量総量の削減)</b> |  |    |                                       |
| 対2015年度比 1.0%減(原単位)                            | 対2015年度比 2.4%増(原単位)                          | B  | ・対2016年度比 1.0%削減(総量)                  |
| <b>2.化学物質リスクの抑制</b>                            |  |    |                                       |
| 「製品含有化学物質管理ガイドライン」の運用                          | 一部の事業所で運用を開始                                 | A  | ・運用の他事業所への展開                          |
| <b>3.生物多様性への取り組み</b>                           |  |    |                                       |
| 森林認証紙使用の拡大                                     | 製造準備が完了                                      | A  | ・森林認証紙使用の拡大<br>・緑地保全地域の保全活動への参加       |
| <b>4.循環型社会形成への取り組み(廃棄物最終埋立量の削減)</b>            |  |    |                                       |
| 廃棄物排出量<br>対2015年度比 1.0%減(原単位)                  | 廃棄物排出量<br>対2015年度比 3.1%増(原単位)                | B  | ・廃棄物最終埋立量<br>対2016年度比 1.0%減           |
| <b>5.環境コミュニケーションの促進</b>                        |  |    |                                       |
| 「CSR報告書 2016」の発行                               | 「CSR報告書 2016」の発行                             | A  | ・「CSR報告書 2017」の発行<br>・地域に密接した環境活動への参加 |
| <b>6.環境マネジメント(環境リスクの回避)</b>                    |  |    |                                       |
| 環境監査の実施  | 法令違反・行政指導・外部からの苦情の実績なし<br>社内17事業所に対し、環境監査を実施 | A  | ・環境監査の実施                              |

評価基準：S・・・目標を大幅に上回る成果があった A・・・目標を概ね達成できた B・・・積極的に取り組んだが目標達成には至らなかった C・・・取り組みが不十分だった

## 2016年度 事業活動における環境負荷



\*：電力使用による発熱量は一律0.00983GJ/kWhで算出しています。

# 研究・開発

環境配慮型製品の環境主張をもとに、製品のライフサイクル全体を見据えた研究・開発を行っています。

## ■ 研究開発における基本的考え方

トッパンフォームズは、製品のライフサイクル全体を考え、従来品と比べて環境に負荷を与えず、環境配慮に優れている製品を開発します。また開発製品に関する安心・安全を確保するために、使用する原材料に関して、環境負荷の低減および安全衛生の確保を目的とした原材料選定基準を定め、それらの基準に適合している原材料を調達することを原則としています。

## ■ 中央研究所における環境方針

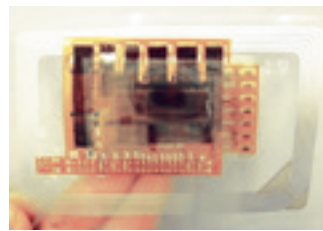
中央研究所は、地球環境の保全が人類共通の重要課題であることを認識し、研究開発を通じて社会的責任を果たすことを基本方針としています。

「研究開発成果の市場リリースによる環境影響の低減」を目的として、環境マネジメントシステムを確立し、研究開発業務を計画的に実行することにより、社会の環境負荷の低減、環境汚染の予防に努めています。

## ■ 研究開発における環境に配慮した新技術

### 高性能有機半導体を用いた 温度センサー機能付き電子タグの開発

国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)のプロジェクトに参画し、印刷で製造可能な有機温度センサーと高性能有機半導体回路を開発し、電子タグとして温度センシングと商用周波数での温度データ伝送に成功しました。デジタル回路を用いる低消費電力の設計と室温近くの大気中での半導体製造工程により省エネルギーを、そして温度センサータグを活用した物流の効率化によるCO<sub>2</sub>の削減を目指します。



「NanoTech2015」で展示されたサンプル

## トッパンフォームズ環境配慮型製品における環境主張

| ライフサイクルステージ | 主張項目             | 主張の概要   |
|-------------|------------------|---|
| 全体          | 温室効果ガス対策         | <ul style="list-style-type: none"> <li>● カーボン・オフセットを組み込んだ製品・サービスの提供</li> <li>● 再生可能エネルギー(グリーン電力など)を活用する製品・サービスの提供</li> <li>● GHG*1排出量を明記した製品・サービスの提供(カーボン・フットプリントなど)</li> </ul>             |
| 生産と流通段階     | 安全素材の使用          | <ul style="list-style-type: none"> <li>● PRTR法指定462物質を削減している</li> <li>● 得意先の要望による禁止物質を使用していない</li> <li>● 焼却時に有害ガスの発生を低減させる材料を使用している(現状、使用後に焼却処理される可能性がある製品に限る)</li> </ul>                   |
|             | 再生材料の利用          | <ul style="list-style-type: none"> <li>● リサイクル素材を用いた製品である</li> </ul>  |
|             | 持続可能性に配慮された材料を使用 | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 再生可能な天然資源を持続可能に利用している</li> </ul>   |
| 使用段階        | 省資源・省エネルギー       | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 材料投入量を削減している(従来品との比較)</li> <li>● 生産工程、製品、包装の改善による固体廃棄物を削減している</li> <li>● 生産工程および物流過程でエネルギー消費を削減している</li> <li>● 製品の稼働にともなうエネルギー消費を削減している</li> </ul> |
|             | 長期使用可能           | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 耐久性、修理や部品交換の容易さ、保守・修理サービスの充実度と期間の長さ、機能拡張性やアップグレードの可能性を考えている</li> </ul>   |
| 使用後段階       | 再使用可能            | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 製品や部品をそのままの形状で同じ用途に使用する。使用済み製品が回収され、再使用されるシステムがある</li> </ul>   |
|             | リサイクル可能          | <ul style="list-style-type: none"> <li>● リサイクルが可能である。素材ごとに分離・分別し、材料としてリサイクルできる。リサイクルのための施設、システムがある*2</li> </ul>   |
|             | 処理・処分が容易         | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 製品の解体が容易な設計である</li> <li>● 埋立処理の場合、土壌汚染の防止対策を施してある</li> <li>● 生分解性、光分解性などにより物質が分解して環境に同化する材料である</li> </ul>  |

\*1 : GHG(Greenhouse Gas) : 温室効果ガス。

\*2 : ただし容器包装リサイクル法で回収・再商品化を義務づけられている容器包装については、「紙」「プラスチック」それぞれのマテリアルリサイクルに支障とならない工夫がなされていること。

# 環境に配慮した製品・サービス

当社は、環境主張をテーマに環境配慮型素材を活用した製品やサービスを提供しています。

## FSC®およびPEFC™のCOC認証の取得

世界の森林を対象とした森林認証制度としては、FSCとPEFCがあります。当社は2006年にFSC、2008年にPEFCのCOC認証\* (Chain of Custody認証) を取得しました。



●責任ある森林管理のマーク

認証登録番号：SA-COC-001571

2006年8月取得

## FSC(Forest Stewardship Council®) : 森林管理協議会

環境・社会活動にかかわる団体、先住民団体、林業にかかわる人々、林産物認証機関など、森林管理にかかわる利害関係者を代表する組織および個人に開かれた会員制の組織です。



●持続可能な森林管理の促進

www.pefc.org

認証登録番号：SA-PEFC/COC-001571

2008年11月取得

## PEFC(Programme for the Endorsement of Forest Certification Schemes)

林業にかかわる人々、政府、労働組合、環境団体、その他のNGOやNPOなどの利害関係者の参画に基づき、各国で個別に策定された森林認証制度の審査およびそれら制度間の相互承認を推進する組織です。

## FSC認証ストックフォームの発売

2015年8月、FSC認証紙を使用したオーダーストックフォームの生産をSTFで開始しました。

## 森林認証コピー用紙の販売

FSC・PEFC認証のコピー用紙を販売しています。お客さまは森林認証製品を選ぶことで持続的な森林経営や林業を間接的に支援することができます。

当社グループは持続可能な社会を実現するために、お客さまへの積極的な森林認証紙の活用をご提案し、認証製品を普及させていきます。



## カーボン・オフセット付き封筒・はがき

封筒とはがきにカーボン・オフセットを付けました。磐城造林(株)社有林における田人町旅人での森林吸収プロジェクト(J-VER登録番号0061)、岩手県沿岸地域における震災がれき再資源化による復興プロジェクト(J-VER登録番号0245)を支援してオフセットします。



## みんなと3Rパネル展示会

2016年10月と2017年2月に、港区にゆかりのある企業や団体のごみ減量とリサイクル推進などの取り組みを紹介する、港区主催のパネル展示会に出展しました。当社は事業の中で排出される紙やフィルムのリサイクル活動やFSC森林認証紙の取り扱いなどをパネルにし、当社の環境への取り組みを幅広く紹介しました。



\* : COC認証：適切に管理された森林(Forest Management認証)から切り出された木材が、加工・流通の段階において他の木材と混ざることなく管理されていることを認証する制度。

# 環境コミュニケーション

環境活動を通して社内外の幅広いステークホルダーとのコミュニケーションを図っています。

## 「汐留環境の会」への参加

当社は汐留近隣の12社で開催している「汐留環境の会」に参加しています。この会は参加企業各社の環境活動に関する情報交換を目的として2009年に発足しました。

現在は年に2回、各社の環境・CSR担当者が自社の取り組みを発表する交流の場となっています。2016年度は6月と11月に開催し、6月は当社が「持続可能な資源としての紙利用」と題して、現在の森林破壊の状況説明と、森林認証コピー用紙の使用推奨について発表しました。

全く異なる業種の各企業の活動を知ることは、新たな視点が得られ自社の活動を見直す良い機会となっています。今後も緩やかな会として継続させていくことを、参加企業間で共通認識としています。



「汐留環境の会」当社プレゼンの様子  
(森林認証コピー用紙については、左側・P36もご参照ください)

## JICA(国際協力機構)海外研修生工場見学

当社グループは2010年からJICAの海外研修生の工場見学に協力しています。2016年度は、4カ国5名の方が滝山工場を訪れました。

この見学が自国での活動に役立つことを願い、帰国後の活躍を期待しています。



## エネルギー管理優良工場等表彰および講演

トッパンフォームズ西日本は、九州地方電力利用効率化協議会の要請を受け、消費電力の削減を実施してきました。今回九州工場でこれまで取り組んできた省エネルギー活動に対する内容および効果実績が評価され、2017年2月に開催された平成28年度エネルギー管理優良工場等表彰式で「九州経済産業局長表彰」を受賞しました。

取り組んだ内容は照明機器のHFタイプへの交換・省エネ機器(インバーター方式)の導入・インバーター式空調機器の導入およびデマンドコントロール(エレワイズ)の設置などで、これにより消費電力を大幅に削減でき、電力会社との契約電力の見直しを図ることができました。

また当社の取り組みについて、2月の「省エネ月間」にあわせて開催された平成28年度電力利用効率化講演会にて、省エネルギー管理優良工場として、当社の概要と省エネルギー取組事例発表の記念講演を行いました。

これまでの実績と今回の受賞を励みにして、今後も省エネルギー活動および環境に配慮した事業活動を続けていきます。



授賞式



講演会

# 環境パフォーマンス

さまざまな環境パフォーマンス指標を集計し、現状把握と今後の改善活動の材料としています。

## 地球温暖化防止への取り組み

当社グループが排出する温室効果ガスは、ほとんどがエネルギー使用に起因するCO<sub>2</sub>排出です。当社グループのエネルギー使用量の94%が電力で、生産事業所での電力使用量が90%を占めています。電力使用量の削減対策は、生産工程で発生する損紙の削減や、従来からの印刷機とプリンターを使用した2工程製造をフルカラーデジタル印刷機導入による1工程製造に切り替えることでエネルギー使用量を削減しています。また工程を減らすことは予備品の製造量削減にも結びついています。

全生産事業所で展開している小集団改善活動とトップダウンで進めている5S活動を両輪とし、生産効率の向上や損紙低減活動に取り組むことで環境負荷の低減に結びつけています。

その他に各種設備のインバーター化、照明のLED化、ボイラー温水の適正温度管理など、省エネ設備の導入や運用によりエネルギー使用量を削減しています。

2016年度のCO<sub>2</sub>排出量(原単位)は、2015年度比で2.4%増加しました。DPS生産事業所の増床が要因の一つとなっています。

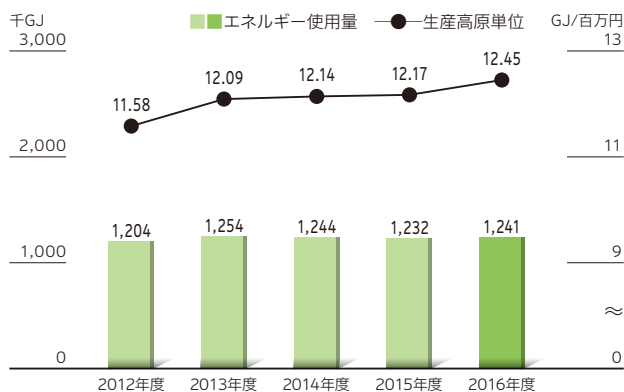
今後もハード面とソフト面の両面からの取り組みによりエネルギー使用量の削減を図っていきます。

## Scope3の算定

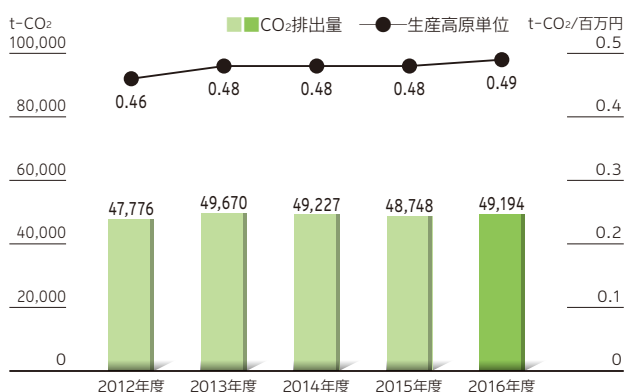
近年温室効果ガス(GHG)の排出量は自社だけではなく、サプライチェーンを含めた排出量を把握・管理することが社会的な要求となっています。当社グループは企業活動に伴い排出する温室効果ガスの中で、排出割合が高いカテゴリ\*1を明確にし、削減への取り組みを的確に効率よく実施するための判断の目安として2013年度からScope3を算定しています。

その結果、原材料使用量に起因する排出量が最も多いことがわかりました。今後も継続的に排出量を把握し、環境負荷低減活動を積極的に推進していきます。

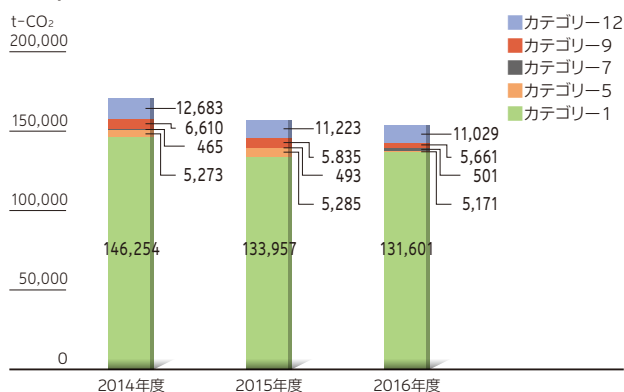
エネルギー使用量・生産高原単位の推移\*2



CO<sub>2</sub>排出量・生産高原単位の推移\*3



Scope3の温室効果ガス排出量



\*1: カテゴリ1: 購入した製品・サービス。5: 事業から出る廃棄物。7: 雇用者の通勤。9: 輸送・配送(下流)。12: 販売した製品の廃棄。  
 \*2: 電力使用による発熱量は一律0.00983GJ/kWhで算出しています。  
 \*3: CO<sub>2</sub>排出量は、環境省の「事業者からの温室効果ガス排出量算定方法ガイドライン(平成15年)」に基づき算出しています。



## 循環型社会形成への取り組み

当社グループから排出される廃棄物は、紙くずが86%を占めていますが、紙くずの99.8%はリサイクルされています。紙くずの削減(損紙低減)は廃棄物削減の重要なテーマとなっています。また当社グループが使用する原材料は紙類が97%を占めています。紙の材料である木は適正な管理をすることで持続可能な資源として使用することができます。当社グループは森林認証紙の使用拡大や損紙低減など材料削減による省資源につなげています。

製造担当役員が管轄する全生産事業所参加の損紙削減活動は、定期的な情報交換会議を行うことで情報を共有し、各工場の有効な施策を全国の工場へ水平展開しています。現場には個人やグループごとの損紙削減目標と実績を掲示し、モチベーションアップによる活動の活性化を図っています。

2016年度の廃棄物排出量(原単位)は2015年度比で3.1%増加しました。長期在庫原材料を一括廃棄処理したことが要因となりました。今後もグループ全体で損紙削減などの省資源活動、分別の徹底、リサイクルできるパートナーの選定などにより、廃棄物や最終埋立量の削減に取り組んでいきます。

## 水の使用状況

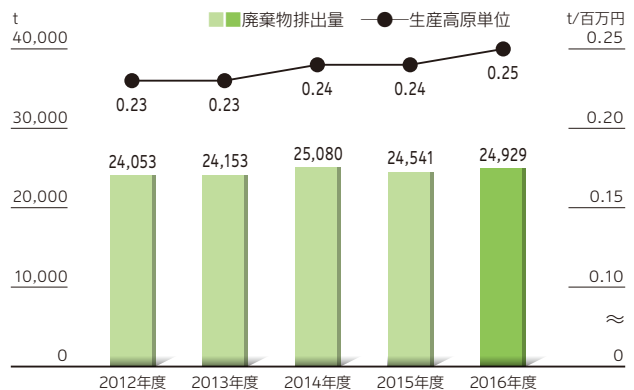
生産事業所で使用する水は地下水と水道水です。主に生活用水、空調冷房機や印刷機の冷却用水として使用しています。

滝山工場では350トンの貯留槽に雨水を溜め、トイレ洗浄水や植栽の散水として利用しています。

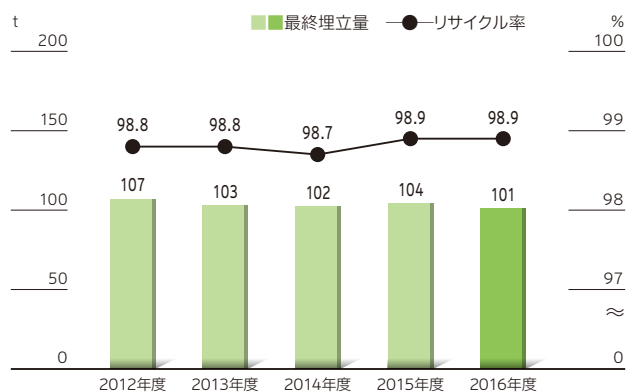
## 化学物質管理

当社グループでは、化学物質管理の全社統一手順として「製品含有化学物質管理ガイドライン」を作成し、製品含有化学物質管理の強化に取り組んでいます。化学物質管理は自社内での取り組みだけではなく、サプライチェーン全体で連鎖的に取り組むことが重要です。今後も継続して管理体制を強化し、運用を図っていきます。

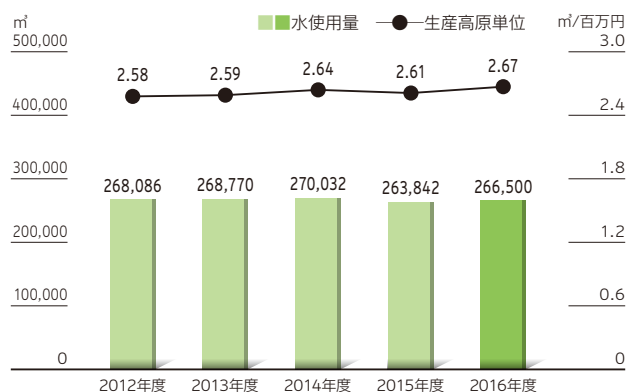
廃棄物発生量と生産高原単位の推移



リサイクル率と最終埋立量の推移



水使用量の推移



# 第三者意見

トッパンフォームズ「CSR報告書 2017」における当社の取り組みについて、立命館大学大学院客員教授の池田耕一先生よりご意見をいただきました。



立命館大学大学院経営管理研究科客員教授  
一般社団法人 経営倫理実践研究センター  
上席研究員  
社会と企業研究所 所長

池田 耕一 氏

企業がCSRを意識し、そして取り組むことは現代の社会においても企業においても概ねの常識となりました。この時代にあっても、一般的には見過ごされがちである大切なポイントが2つあります。

その一つは、CSRへの真摯な取り組みが当該企業の発展をもたらすことです。CSRは「企業の社会に対する責任」とのみ理解されることが多く、逆にCSRに取り組む企業に社会が何をもたらすかという視点は水面下に隠れがちです。もう一つは、ステークホルダーの一つであると同時にCSRに取り組む主体でもある「従業員」に対する取り組みがCSR活動の基盤を形成することです。「従業員」こそがCSR活動の有効性と効率性を左右する鍵ですが、反面いわば身内であることから、その取り組みは他のステークホルダーに比べて後回しになりがちです。

トッパンフォームズ「CSR報告書 2017」からは、CSRの基本を設立当初から把握・実践するとともに、この2つのポイントをも深く認識し、誠実にCSRに取り組んでいる企業の姿が浮かび上がってきます。

同社のCSRの基本理念は経営信条「三益一如」です。社会益、会社益、個人益を併せて追求する考え方とその実践により、1955年設立のベンチャー企業は今日の業容にまで大きく発展しえたといつて過言ではありません。このような歴史を持つからこそ「CSRの根幹は法令をはじめ、ルールをしっかり守りコンプライアンスを徹底することであり、(中略)具体的には、自らの日常の行動を見直し、自らを律する姿勢を改めて確認し、確実に日々の行動に反映させていくこと」であるとのトップメッセージは極めて明確であり、正鵠を得たものといえましょう。

このトップメッセージは、「従業員とともに」で紹介されている女性社員や中高年齢層など人材の多様性を活かすダイバーシティ&インテグレーションのまさしく多様な施策展開、また特集1「事業継続」における徒歩帰宅訓練など各種訓練・演習の重視などにも通底しているように思われます。

個々の取り組み内容については、ステークホルダーの全てに関連する情報セキュリティなどの「マネジメント体制」、地域社会や従業員など主なステークホルダーごとの活動を記載した「ステークホルダーとのかかわり」、環境マネジメントなどの「地球環境とのかかわり」に大別して等身大で具体的に報告されています。PDCAマネジメントサイクルの枠組みによる「2016年度の実績と2017年度の施策」は、それらを凝縮した一覧表であり、同社グループの広範かつ多彩な取り組みの現状と課題が俯瞰できる労作です。

報告書を一読して、各部門による取り組みが、多少の程度の違いはあっても経営信条に基づき誠実に、そして地に足をつけて展開されていることを実感します。平明な言葉や適切な写真・図表などによってわかりやすく、そして、見やすく紹介されていることは大きな特長です。ステークホルダーとの対話を重視する企業姿勢の具体的な表れといえましょう。

生身の人間の集団である企業において時として発生しがちな創業理念の風化を防ぎつつ、異なるテーマを担当する各部門がそれぞれの活動を積極的に進めると同時にお互いの連携と相互確認をさらに促進することによって、現時点で散見される個々の活動の粗密や濃淡を高位平準化していかれることを心から期待します。

## ISO26000対比表

| ISO26000の中核主題             | 該当項目           | 頁  |             |
|---------------------------|----------------|--|-------------|
| 組織統治                      | トッパンフォームズのCSR  | CSRの基本的な考え方、CSR推進テーマの設定・運用、CSR活動の推進                        | 8~9         |
|                           | コーポレートガバナンス    | 基本的な考え方、コーポレートガバナンス体制、コーポレートガバナンス基本方針                      | 14~15       |
| 人権                        | 従業員とともに        | ダイバーシティ&インテグレーション<br>健康経営の推進、安全・安心な職場                      | 28~29<br>31 |
|                           | 従業員とともに        | 自己成長・自己実現の支援、制度  | 30          |
| 環境                        | 地球環境とのかかわり     | 環境マネジメント、環境コミュニケーション、環境パフォーマンス                             | 33~39       |
| 公正な事業慣行                   | 行動指針           |  | 8           |
|                           | コンプライアンス       | 行動指針の浸透、コンプライアンス教育、企業倫理ホットライン、コンプライアンスの状況                  | 16          |
|                           | リスクマネジメント      | リスクマネジメントへの取り組み、リスクマネジメント体制と活動                             | 13          |
|                           | 株主・投資家とともに     | 経営活動の透明な情報開示、配当政策、株主総会の開催                                  | 26          |
|                           | 取引先とともに        | CSR調達の推進、CSR調達ガイドライン、サプライヤーホットラインの開設                       | 27          |
| 消費者課題                     | 事業継続           | 事業継続計画(BCP)策定のステップ、事業継続への取り組み                              | 17          |
|                           | 情報セキュリティ       | 情報セキュリティへの取り組み、基本方針、サイバー攻撃対策への取り組み、多層的な防御を推進、外部との連携強化      | 18~19       |
|                           | お客さまのために       | 品質の保証・向上、製品の安全性を徹底追求、品質管理検定(QC検定)の取得推進、お客さまのニーズに応えた製品・サービス | 24~25       |
|                           | 研究・開発          | 研究開発における基本的考え方、中央研究所における環境方針、研究開発における環境に配慮した新技術            | 35          |
|                           | 環境に配慮した製品・サービス | 森林認証の取得、カーボン・オフセット付き製品                                     | 36          |
| コミュニティへの参画<br>及びコミュニティの発展 | 地域社会とともに       | 全国拠点での地域貢献活動、地域とのコミュニケーション                                 | 21~23       |
|                           | 環境コミュニケーション    | 「汐留環境の会」への参加、エネルギー管理優良工場等表彰および講演                           | 37          |

## 編集後記

「トッパンフォームズ CSR報告書2017」をご覧いただきありがとうございました。

今回の特集は「事業継続」と「社会とのつながり」です。当社は2006年度からBCMS構築に着手してきましたが、その間二度にわたり大規模な震災が発生し、事業継続活動の重要性をより強く認識しました。そこで2016年度は事業継続の基本である従業員の安全対策を中心に、新たな試みを実施しました。また当社グループは、日ごろから地域・社会の方々との相互理解を深めることこそが、企業としての持続的な成長につながると考えており、引き続き「社会とのつながり」を大切に、さまざまな活動を行ってまいります。

あわせて本誌でご報告のCSR活動全般を、今後も社会の一員としてグループ全体で真摯に取り組み、経営信条「三益一如」を実践してまいります。

ステークホルダーの皆さまには本報告書を通じて当社グループの活動を知り、ご理解いただければ幸いです。

本書をお読みいただいたご意見・ご感想などございましたら、下記URL(PC用)またはQRコード(モバイル用)からアンケートサイトにアクセスしご回答ください。

【アンケートサイト】<https://mdh.fm/e?cB102UW6d>



### 【編集方針】

- 発行年月 2017年6月
- 報告対象期間  
2016年度(一部期間外の情報を含みます)
- 報告対象範囲(環境実績集計範囲)  
トッパン・フォームズ株式会社  
本社ビル  
中央研究所  
生産事業所：仙台センター  
グループ会社  
トッパン・フォームズ・セントラルプロダクツ株式会社(TFCP)  
トッパン・フォームズ東海株式会社(TFT)  
トッパン・フォームズ・サービス株式会社(TFS)  
トッパン・フォームズ関西株式会社(TFK)  
トッパン・フォームズ西日本株式会社(TFN)  
山陽トッパン・フォームズ株式会社(STF)  
北海道トッパン・フォームズ株式会社(HOTF)  
沖縄ビジネスフォーム株式会社(OBF)  
トッパン・フォームズ(香港)社  
トッパン・フォームズ・カード・テクノロジーズ社[香港]  
トッパン・フォームズ(シンガポール)社

本文中の「生産事業所」は、上記の生産事業所と中央研究所、グループ会社の生産事業所を含みます。また「事業所」は、生産事業所と事務所を含みます。

### 【お問い合わせ】

総務本部 TEL:03-6253-5713

## トッパン・フォームズ株式会社

〒105-8311 東京都港区東新橋 1-7-3  
<http://www.toppan-f.co.jp/>  
お問い合わせ  
総務本部 TEL.03-6253-5713

### みんなの文字®

この制作物は、みんなの文字を使用しています。みんなの文字は、一般社団法人UCDAが「読みやすさ」を認証した書体です。

© TOPPANFORMS 2017 1



どんぐりん  
A0365

CFPを活用して  
ライフサイクル全体の  
カーボン・オフセットをしました。

730g



CO<sub>2</sub>の「見える化」  
カーボンフットプリント  
1冊あたり  
<http://www.cfp-japan.jp>  
CR-BS05-17010



COM17001-1705N-080